

特別な支援が必要な子どものための

移行支援ガイドライン

～一人ひとりに必要な支援を大切につなぐために～



はじめに

福井県では、平成24年4月に発達障害児教育推進チームを設置しました。このチームでは、発達障害や同様の特性のある児童生徒に対して、早期からの途切れない一貫した対応を前提に、就学前から就労までの指導・支援のシステムを作ることが目的とし、下記の4点に取り組んできました。

- ①モデル地区での指導実践と事例集の作成
- ②移行支援ガイドラインの作成
- ③保護者への理解推進用リーフレット作成・配付
- ④福井県版支援ツール『子育てファイルふくいっ子』の障害福祉課との協働作成

今回発刊する「移行支援ガイドライン」は、就学前から就労までの途切れない一貫した支援の継続を目指して作成されたものです。

ガイドラインでは、早期から就労までを5段階に分け、移行支援のシートや支援内容についてその概要を示してあります。

各校においては、本ガイドラインを参考に、通常の学級における特別な支援が必要な児童生徒の支援の継続性が促進されるように、組織的に取り組む手がかりにいただければ幸いです。

平成25年3月

福井県教育委員会
発達障害児教育推進チーム

このガイドラインの使い方

この「特別な支援が必要な子どものための移行支援ガイドライン」は、発達障害のある児童生徒や特別な支援を要する子どもたちに対して、就学前から学校生活を経て、就労に至るまで、適切な指導・支援を継続して行うための指導・支援者の手引として、作成したものです。

県では平成25年度に、保護者と共に活用できる支援ファイルとして障害福祉課が中心になり、本チームも協力して「子育てファイル ふくいっ子」を発行します。児童生徒の状況や指導・支援の計画、実際に支援した内容を記録し、園や学校で引き継いでいくものです。このガイドラインは、支援ファイルを使用しながら活用していただくと、幼児から社会人まで途切れない一貫した支援をより引継ぎやすくなります。

本ガイドラインは、「Ⅰ 保育所→幼稚園」「Ⅱ 保育所・幼稚園→小学校」「Ⅲ 小学校→中学校」「Ⅳ 中学校→高等学校」「Ⅴ 高等学校→進学・就労」と5段階構成になっております。ご自身の関連する段階だけでなく、子どもたちの移行支援の全段階を見通す資料としてもご覧いただければと思います。

また、本ガイドラインの作成にあたり、保育所、幼稚園から高等学校、大学、就労先まで、指導・支援の現場にアンケート調査を行い、それを基に各段階での移行支援に必要な内容を検討しました。各段階での内容構成も、「1 各段階の移行支援の概要図」で移行支援の全体像をつかんでいただき、「2 解説」で詳しく移行支援の実際を把握し、「3 移行支援シート」を活用して、指導・支援の内容を次の支援の場へまとめて伝えていただくようになっています。「4 参考資料：アンケート調査」では、事前に行ったアンケートの内容と結果を載せてあります。このアンケート調査は、モデル地区を依頼した若狭町、小浜市、勝山市、坂井市の保育所、幼稚園、小学校、中学校と、福井市の保育所と幼稚園、県内の私立幼稚園、大学、短大、専門学校、障害者職業センターに依頼したものです。高等学校については、特別な支援を要する生徒の調査を行った際、同時に実施しました。目を通していただくと、現場の指導・支援者の方々の熱い思いからこのガイドラインが作られたことが、ご理解いただけるかと思います。

移行支援シートについては、「Ⅰ」「Ⅱ」段階のものは、既に「子育てファイル ふくいっ子」に掲載されております。「Ⅲ」～「Ⅴ」段階のものは、様式データを各市町の教育委員会、保育担当主管課、県立高等学校、県立特別支援学校、特別支援教育センター、嶺南教育事務所等に送付しましたので、ご利用ください。

< 目 次 >

はじめに

このガイドラインの使い方

I	保育所→幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	保育所から幼稚園への移行支援の概要図・・・・・・・・	2
2	解説・・・・・・・・・・・・・・・・	4
3	移行支援シート・・・・・・・・・・・・・・・・	6
4	参考資料：アンケート調査・・・・・・・・	8
II	保育所・幼稚園→小学校・・・・・・・・	15
1	保育所・幼稚園から小学校への移行支援の概要図・・・・・・・・	16
2	解説・・・・・・・・・・・・・・・・	18
3	移行支援シート・・・・・・・・・・・・・・・・	20
4	参考資料：アンケート調査・・・・・・・・	22
III	小学校→中学校・・・・・・・・	31
1	小学校から中学校への移行支援の概要図・・・・・・・・	32
2	解説・・・・・・・・・・・・・・・・	34
3	移行支援シート・・・・・・・・・・・・・・・・	36
4	参考資料：アンケート調査・・・・・・・・	39
IV	中学校→高等学校・・・・・・・・	45
1	中学校から高等学校への移行支援の概要図・・・・・・・・	46
2	解説・・・・・・・・・・・・・・・・	48
3	移行支援シート・・・・・・・・・・・・・・・・	50
4	参考資料：アンケート調査・・・・・・・・	53
V	高等学校→進学・就労・・・・・・・・	59
1	高等学校から進学・就労への移行支援の概要図・・・・・・・・	60
2	解説・・・・・・・・・・・・・・・・	62
3	移行支援シート・・・・・・・・・・・・・・・・	64
4	参考資料：アンケート調査・・・・・・・・	69

おわりに

【用語の解説】

『移行支援』

障害のある人たちや特別な支援の必要な子どもたちに対して、就学前から就労まで指導・支援を一貫して行えるよう、例えば保育所から小学校、高等学校から就労までなど、次の支援の場に適切な指導・支援を丁寧に引き継いでいくこと。移行支援の際には、本人や保護者の同意を得ながら進めることが大切とされている。

『個別の指導計画』

指導を行うためのきめ細かい計画。

幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ指導計画である。例えば、単元、学期、学年等ごとに作成され、それに基づいた指導が行われる。

『個別の教育支援計画』

他機関との連携を図るための長期的な視点に立った計画。

一人ひとりの障害のある子どもについて、乳幼児期から学校卒業までの一貫した長期的な計画である。「個別の支援計画」と同じものだが、学校が中心となって作成するもの。

作成にあたっては関係機関との連携が必要。また、保護者の参画や意見等を聞くことなどが求められる。

※福井県では、簡潔に継続して使用できるものとして、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を一つにして、小学校、中学校、高等学校に在籍している児童生徒用の「個別の指導（支援）計画シート」の福井県版の様式を平成24年度に作成しました。

小中学校用の様式は、「子育てファイル ふくいっ子」に掲載しました。

進路指導・支援の情報を記入できる中・高校用の様式データは、各市町教育委員会、高等学校等に配付してあります。是非ご活用ください。

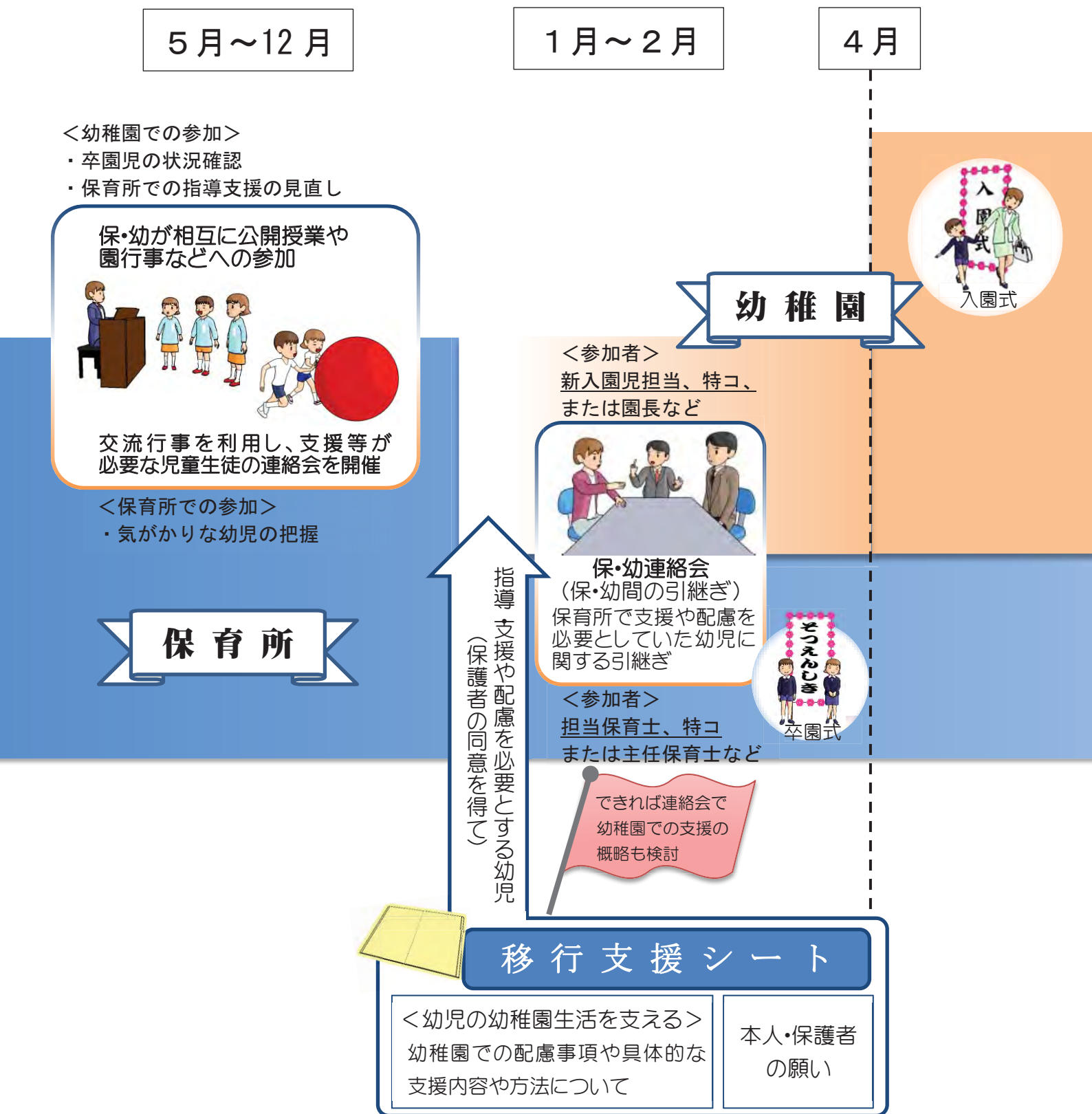
『特別支援教育コーディネーター』

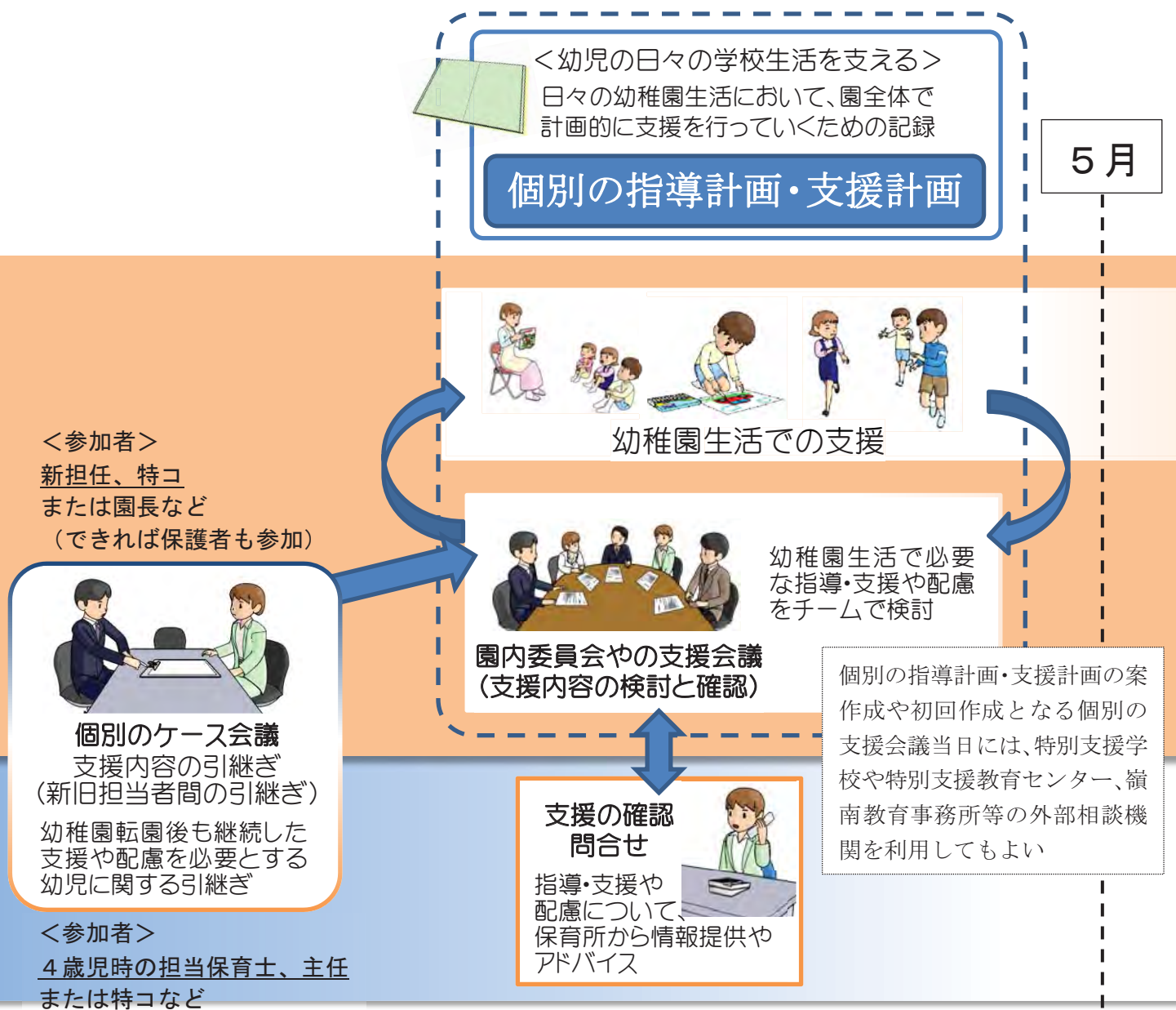
校内または、福祉・医療等の関係機関との間の連絡調整役、あるいは保護者に対する学校の窓口の役割を担う者として、校長が指名する教員。教育的支援を行う人や機関との連携協力の強化、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成の推進、校内の支援体制作りが重要な仕事となる。

業務の内容が多岐にわたるため、最近では、複数指名し、役割を分担する学校も増えている。

I 保育所→幼稚園

1 保育所から幼稚園への移行支援の概要図





2 解説

（１）保育所と幼稚園の連絡会について

①時期と場面

アンケートによると、１～２月にかけて連絡会を行うのが良いと回答した園が、保育所では７４％、幼稚園でも８１％を占めていた。

保育所では３月初めと答えたところもあったが、幼稚園では皆無であった。これは、地域の小学校と併設する幼稚園では、小学校の卒業式に向けた行事の関係もあり、３月初めに連絡会が設けにくい事情があるようだ。

以上のことから、連絡会は１～２月に行うことが望ましいと思われる。

また、１回だけでなく、連携や情報の伝達を確かにするために、幼稚園の新担任が決まった新学期が開始ごろに、再度連絡会を開くことがよいようだ。

②最初の連絡会（１～２月・園間の引継ぎ）

１）連絡会の日程調整

互いの園の都合の良い時期に日程を決め、できれば幼稚園側から幼稚園の指導が終わった午後の時間帯に保育所を訪問し、対象の園児を観察した後、連絡会をもつことがよいと思われる。放課後、幼稚園が期日を決め、１～３日間で地域の各保育所の担当者と時間を調整して行うことがよいと思われる。

２）メンバー

最初の連絡会となるので、保育所側は担当保育士と主任保育士、もしくは特別支援コーディネーター（以下、「特コ」という。）など支援を必要とする園児の窓口役の職員、幼稚園側は担当予定の教諭と特コ（小学校との兼務の場合がほとんどであるが）など、両園ともに少なくとも２名ずつ参加することがよいだろう。２名ずつ参加することで、情報の内容に誤解や行き違いが生じることがあっても、修正がしやすくなる。また、異動で参加者のどちらかがいなくなっても、２度目の連絡会で確実に情報をつなぎ、伝達漏れなどがあっても補うことができる。

３）保育所からの引継内容

保育所から伝える情報としては、以下のような内容が必要と思われる。

- ・連携している医療・福祉の機関など
- ・日常生活習慣
- ・家庭環境
- ・園児本人の特性（人とのかかわり・社会性、不注意・多動・衝動性やその他の行動面などの面）や診断名など

- ・ 保育所で行っていた指導・支援、配慮について、その内容や方法（本人の特性に応じたものなど）
- ・ 本人の得意な面、苦手な面、好きなことなど（幼稚園での指導・支援のヒントになる）
- ・ 本人や保護者の願いや思いなど（インクルーシブ教育システム構築推進の時代において、必要不可欠である）

以上の内容を口頭ではなく、移行支援シートなどを使って伝え漏れがないよう、しっかり引き継ぐことが必要である。

4) 幼稚園での指導・支援、支援体制などの検討

幼稚園側は、この連絡会の際に、保育所からの情報を聞きながら、暫定的なものでも、現時点で考え得る支援体制や指導・支援方法を検討することが望ましい。保育所側と一緒に検討したことを、移行支援シートに書き込んで、入園後の指導・支援に備えることができる。

③ 2度目の連絡会（幼稚園の担任が決まった後）

1) 連絡会の日程調整

開催の日程は、幼稚園側から新学期が始まって間もない時期（4～5月初旬頃）で調整するとよいと思われる。できれば保護者にも参加を要請し、個別ケース会議として開くことが望ましい。

2) メンバー

2度目の連絡会では、保育所側は4歳児時の担当保育士、主任保育士、または特コ役の職員が参加。どちらか、あるいは両者が異動している場合には園長が参加する。

幼稚園側は、新担任と特コ、または園長が参加。保護者も加わる如果能够できればベストである。

3) 引継ぎ及び検討内容

前回作成した移行支援シートで引継内容を再確認しながら、保育所、幼稚園合同で個別の教育支援計画を作成するとよい。会の開催前に、幼稚園は計画の原案を作成しておくといだろう。

（2）その他の移行支援、連携の場面について

① 公開授業、学校開放、学校行事への参加について

幼稚園、保育所が行っている公開授業や公開保育、発表会や運動会など公開の行事や交流行事などに、互いの職員が参加し、当日や後日に情報交換の場をもつとよい。互いに卒園児や来年度以降の入園予定の園児の様子を見たり、互いの支援の状況を確認することができる。

3 移行支援シート

(1) シートの様式（サマリーシート）

引き継ぎのためのサマリーシート	
これまでの成長・発達の様子や変化 記入日 [/ /] 記入者 [] (人のかかわり・社会性) (コミュニケーション) (興味・こだわり) (不注意) (多動性・衝動性) (学習面・運動面、その他感覚等) (知的障害の有無) (身体について)	
これまでの支援内容・方法、工夫や配慮したことなど（教材・環境設定・働きかけなどの工夫や対応など） 記入日 [/ /] 記入者 []	
引き継ぎ後も配慮してほしいことなど（これまでの支援で伸びたことやこれからも伸ばしてほしいことなど） 記入日 [/ /] 記入者 []	
保護者から引き継ぎ後の生活に関する希望や配慮してほしいことなど（これからの学校生活での心配なことなど） 記入日 [/ /] 記入者 []	

(2) 移行支援シートの記入上の留意点

①作成にあたって

保育所側が幼稚園との連絡会等で最初にケースの話をする際の資料として作成する。

作成にあたっては、必ず保護者の同意をとること。

記入は、保育所の担当保育士または特コ役の職員が行う。一人で記入するのではなく、対象園児を支えるメンバー全員で支援チーム会議において話し合いながら記入することが望ましい。あるいは、少なくともそのメンバーの意見を個別に聴取しながら記入する。

②「引き継ぎ後も配慮してほしいことなど」「保護者から引き継ぎ後に関する希望や配慮してほしいことなど」の欄の幼稚園からの記入について

一度保育所で記入するが、幼稚園との連絡会等の際に、幼稚園ができる指導・支援・配慮について検討し、その概要を手書きでよいので書き加えると、実際の幼稚園での支援の移行につながやすい。

③承認

保育所での記入が終わった段階で、保護者からの承認を受け、シートの下欄外に保護者の署名と捺印をもらう。

4 参考資料：アンケート調査

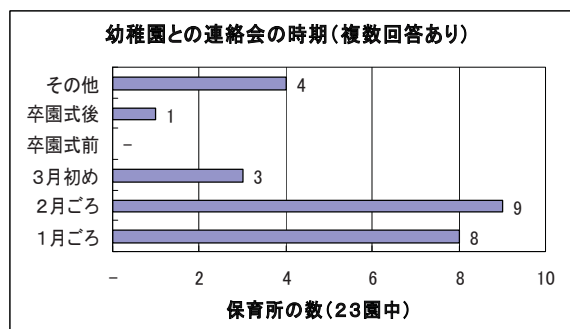
(1) 保育所

① アンケート用紙

アンケート 1																
特別な支援が必要な園児のための移行支援アンケート (保育所→幼稚園)																
保育所用																
特別な支援が必要な園児について、保育所から幼稚園への支援の移行(情報の伝達等)をスムーズにするため、以下のアンケートにお答えください。 ※適切な項目の口の中に○や数字をリストから選んで記入してください。その他等の場合には口の中に具体的にお書きください。																
1 幼稚園と個別ケースの連絡会(支援の移行)を行う時期(はいつの時期が良いでしょうか？) ☐ ①1月ごろ ☐ ②2月ごろ ☐ ③3月初め ☐ ④卒園式(口月口日)の前 ☐ ⑤卒園式(口月口日)の後 ☐ ⑥その他の時期																
2 引継ぐ内容としては、こういった項目が必要でしょうか？(複数回答可) <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①人とかかわり・社会性</td> <td>☐ ②コミュニケーション</td> <td>☐ ③興味・こだわり</td> </tr> <tr> <td>☐ ④不注意・多動性・衝動性</td> <td>☐ ⑤情緒面</td> <td>☐ ⑥数や文字、図形などの学習面</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑦運動面</td> <td>☐ ⑧手先の巧緻性</td> <td>☐ ⑨日常生活習慣</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑩得意なこと・苦手なこと</td> <td>☐ ⑪その他気がかりな行動</td> <td>☐ ⑫家庭環境</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑬診断名・医療連携の有無</td> <td>☐ ⑭その他 </td> <td></td> </tr> </table>		☐ ①人とかかわり・社会性	☐ ②コミュニケーション	☐ ③興味・こだわり	☐ ④不注意・多動性・衝動性	☐ ⑤情緒面	☐ ⑥数や文字、図形などの学習面	☐ ⑦運動面	☐ ⑧手先の巧緻性	☐ ⑨日常生活習慣	☐ ⑩得意なこと・苦手なこと	☐ ⑪その他気がかりな行動	☐ ⑫家庭環境	☐ ⑬診断名・医療連携の有無	☐ ⑭その他	
☐ ①人とかかわり・社会性	☐ ②コミュニケーション	☐ ③興味・こだわり														
☐ ④不注意・多動性・衝動性	☐ ⑤情緒面	☐ ⑥数や文字、図形などの学習面														
☐ ⑦運動面	☐ ⑧手先の巧緻性	☐ ⑨日常生活習慣														
☐ ⑩得意なこと・苦手なこと	☐ ⑪その他気がかりな行動	☐ ⑫家庭環境														
☐ ⑬診断名・医療連携の有無	☐ ⑭その他															
3 「2」のような項目を引継ぐための移行支援シートを活用していますか？ それは、どこが様式を作成したものですか？(例:特別支援教育センター、市教委) ☐ ①活用している→ の様式 ☐ 活用していない																
4 支援を引継ぐことの保護者の同意は、いつ得られ得るとよいと思いますか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①幼稚園との連絡会の直前</td> <td>☐ ②年度の始め</td> </tr> <tr> <td>☐ ③年度のできるだけ早期 </td> <td>☐ ④その他 </td> </tr> </table>		☐ ①幼稚園との連絡会の直前	☐ ②年度の始め	☐ ③年度のできるだけ早期	☐ ④その他											
☐ ①幼稚園との連絡会の直前	☐ ②年度の始め															
☐ ③年度のできるだけ早期	☐ ④その他															
5 保護者との同意を得る際に課題となっていることは何ですか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①園児の状況についての認識のズレ</td> <td>☐ ②保護者の考えが聞きづらい</td> </tr> <tr> <td>☐ ③発達障害等、障害の理解の難しさ</td> <td>☐ ④幼稚園での支援が見通せない</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑤その他</td> <td></td> </tr> </table>		☐ ①園児の状況についての認識のズレ	☐ ②保護者の考えが聞きづらい	☐ ③発達障害等、障害の理解の難しさ	☐ ④幼稚園での支援が見通せない	☐ ⑤その他										
☐ ①園児の状況についての認識のズレ	☐ ②保護者の考えが聞きづらい															
☐ ③発達障害等、障害の理解の難しさ	☐ ④幼稚園での支援が見通せない															
☐ ⑤その他																
6 その他支援を移行するために課題となっていることは何ですか？ 																
※当園は、公立ですか？私立ですか？ ☐ ①公立 ☐ ②私立																
※記入者の所属の市町村名 ※記入者の職名																

②結果

1) 幼稚園との連絡会の時期

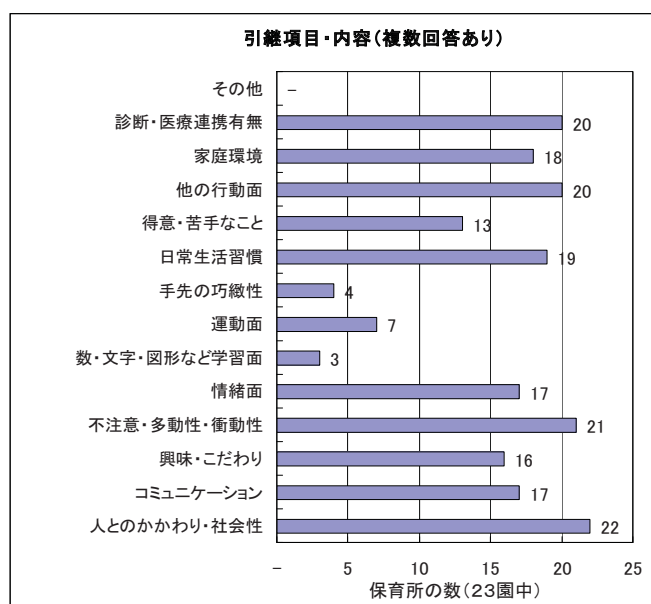


*1 その他
 ・12月上旬
 ・保育カウンセラーの巡回訪園後
 ・幼稚園の担任が決まり次第

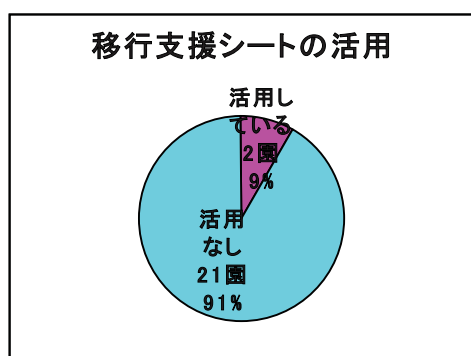
幼稚園との連絡会は、調査した全保育所23園中17園、74%にあたる園が1～2月に行いたいとの回答であった。

2) 引継項目・内容

まだ4歳児段階での引継ぎということもあり、「数・文字・図形などの学習面」や「運動面」「手先の巧緻性について」の内容を引き継ぐ保育所は全23園中3～7園と3割以下であったが、他の項目は65%以上であり、特に「人とのかかわり・社会性」「不注意・多動・衝動性」「他の行動面」「診断・医療関係との連携の有無」の項目を引継項目・内容として必要と考える園は、87%以上を占めていた。



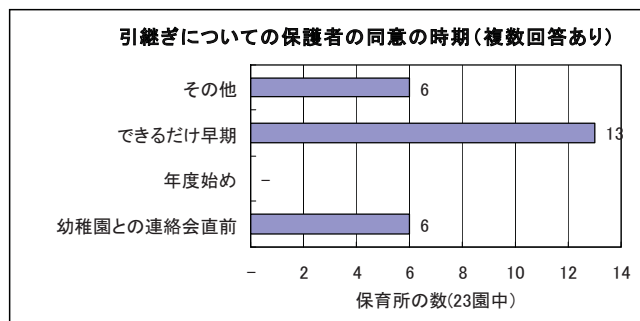
3) 移行支援シートの活用



*1 活用様式
 ・市町独自1園
 ・特別支援教育センター1園

保育所23園中、移行支援シートを活用しているのは9%に当たる2園のみであった。活用していない園では、保育要録に支援の内容等、必要な内容を書き込んでいるという保育所も3園あったが、書面での引継ぎはあまり行われていないようである。

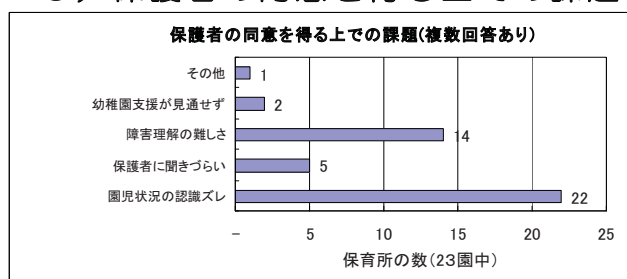
4) 引継ぎについての保護者の同意の時期



*1 その他
・ケース・バイ・ケース
・移行が分かった時点(秋頃)

保護者の同意を得る時期について、できるだけ早期にと考えているのは保育所23園中、56%の13校、幼稚園との連絡会直前と回答した園も6園の26%あった。

5) 保護者の同意を得る上での課題



保護者の同意を得る上での課題としては、「園児の状況についての園と保護者の認識のズレ」が96%で22園、「障害理解の難しさ」も14園で61園あった。年齢も小さいこともあって、園児の状況を保護者にどう理解してもらえるかが大きな課題と言えよう。

6) その他、移行支援の課題と考えていること(アンケートの生の声)

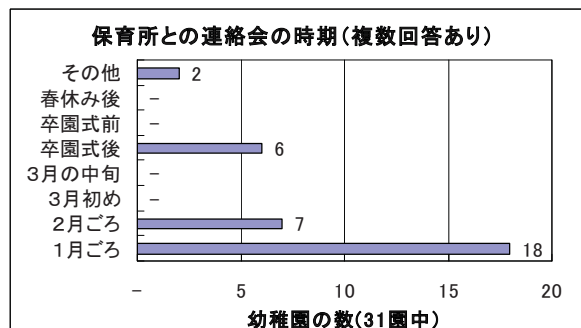
- ・保育所側と幼稚園側の思いにズレがあるように感じることもある。
- ・連絡会時の担当者が異動してしまうことがあり、転任者が着任してからの移行支援会議となるケースもある。
(職員数が少ない幼稚園においては、ほとんど職員が入れ代わることもある)。
- ・保育所と比べて環境が変化し、子どもがその変化に慣れるのに時間が必要ではないだろうか。
- ・広域入所園児の、連絡引継ぎが難しい。またはできにくい。
- ・幼稚園側が、特別な子という認識で、その子の判断をしまいがちになり、手だてやかかわり方などの引継ぎが、うまくいかない。
- ・移行支援をする子もしない子も、それ以前から、保育所と幼稚園が十分交流をもっていく必要がある。
- ・連絡会のみでは、移行支援への共通理解は難しい。保育所指針と幼稚園教育の違いもあると思うが、保育カウンセラー訪問時など、一緒に研修していくことで、子ども理解や支援の仕方の方向性が一致し、連続した支援につながると思う。

(2) 幼稚園

① アンケート用紙

アンケート 2																
特別な支援が必要な園児のための移行支援アンケート (保育所→幼稚園)																
幼稚園用																
特別な支援が必要な園児について、保育所から幼稚園への支援の移行(情報の伝達等)をスムーズにするため、以下のアンケートにお答えください。 ※適切な項目の口の中に○や数字をリストから選んで記入してください。その他等の場合には、の中に具体的に書きください。																
1 保育所と個別ケースの連絡会(支援の移行)を行う時期はいつの時期が良いでしょうか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①1月ごろ</td> <td>☐ ②2月ごろ</td> <td>☐ ③3月初め</td> <td>☐ ④3月の中旬</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑤卒園式の後</td> <td>☐ ⑥卒園式の前</td> <td>☐ ⑦春休み後</td> <td>☐ ⑧その他 </td> </tr> </table>		☐ ①1月ごろ	☐ ②2月ごろ	☐ ③3月初め	☐ ④3月の中旬	☐ ⑤卒園式の後	☐ ⑥卒園式の前	☐ ⑦春休み後	☐ ⑧その他 							
☐ ①1月ごろ	☐ ②2月ごろ	☐ ③3月初め	☐ ④3月の中旬													
☐ ⑤卒園式の後	☐ ⑥卒園式の前	☐ ⑦春休み後	☐ ⑧その他 													
2 引継ぐ内容としては、こういった項目が必要でしょうか？(複数回答可) <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①人とかかわり・社会性</td> <td>☐ ②コミュニケーション</td> <td>☐ ③興味・こだわり</td> </tr> <tr> <td>☐ ④不注意・多動性・衝動性</td> <td>☐ ⑤情緒面</td> <td>☐ ⑥数や文字、図形などの学習面</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑦運動面</td> <td>☐ ⑧手先の巧緻性</td> <td>☐ ⑨日常生活習慣</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑩得意なこと・苦手なこと</td> <td>☐ ⑪その他気がかりな行動</td> <td>☐ ⑫家庭環境</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑬診断名・医療連携の有無</td> <td>☐ ⑭その他 </td> <td></td> </tr> </table>		☐ ①人とかかわり・社会性	☐ ②コミュニケーション	☐ ③興味・こだわり	☐ ④不注意・多動性・衝動性	☐ ⑤情緒面	☐ ⑥数や文字、図形などの学習面	☐ ⑦運動面	☐ ⑧手先の巧緻性	☐ ⑨日常生活習慣	☐ ⑩得意なこと・苦手なこと	☐ ⑪その他気がかりな行動	☐ ⑫家庭環境	☐ ⑬診断名・医療連携の有無	☐ ⑭その他 	
☐ ①人とかかわり・社会性	☐ ②コミュニケーション	☐ ③興味・こだわり														
☐ ④不注意・多動性・衝動性	☐ ⑤情緒面	☐ ⑥数や文字、図形などの学習面														
☐ ⑦運動面	☐ ⑧手先の巧緻性	☐ ⑨日常生活習慣														
☐ ⑩得意なこと・苦手なこと	☐ ⑪その他気がかりな行動	☐ ⑫家庭環境														
☐ ⑬診断名・医療連携の有無	☐ ⑭その他 															
3 「2」のような項目を引継ぐための移行支援シートを活用していますか？ それは、どこが様式を作成したのですか？(例: 特別支援教育センター、市教委) ☐ ①活用している()の様式 ☐ ②活用していない																
4 支援を引継ぐ際に、保護者との同意が必要と考えていますか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①必ず必要</td> <td>☐ ②できる限り必要</td> </tr> <tr> <td>☐ ③やむを得ない場合はなくても仕方ない</td> <td>☐ ④必要ない</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑤その他</td> <td></td> </tr> </table>		☐ ①必ず必要	☐ ②できる限り必要	☐ ③やむを得ない場合はなくても仕方ない	☐ ④必要ない	☐ ⑤その他										
☐ ①必ず必要	☐ ②できる限り必要															
☐ ③やむを得ない場合はなくても仕方ない	☐ ④必要ない															
☐ ⑤その他																
5 そのほかの支援を移行するために課題となっていることは何ですか？																
※当園は、公立ですか？私立ですか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①公立</td> <td>※記入者の所属の市町村名 </td> </tr> <tr> <td>☐ ②私立</td> <td>※記入者の職名 </td> </tr> </table>		☐ ①公立	※記入者の所属の市町村名 	☐ ②私立	※記入者の職名 											
☐ ①公立	※記入者の所属の市町村名 															
☐ ②私立	※記入者の職名 															

②結果

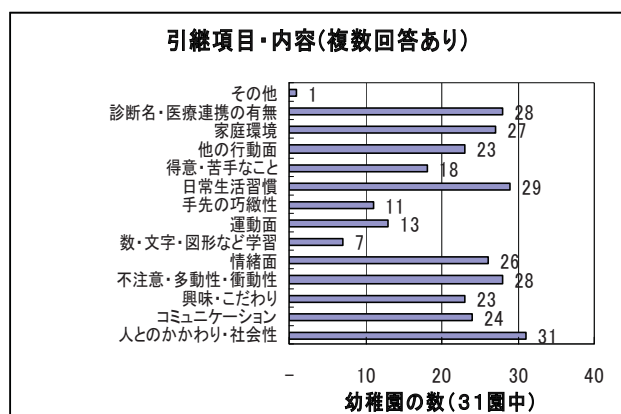


1) 保育所との連絡会の時期

保育所との連絡会は、1月が良いと答えた幼稚園が31園中58%の18園、2月と答えた園は23%の7園、卒園式後が19%の6園であった。保育所よりは、1月の割合が高く、早めに連携をしたいと考えている園が多いようだ。

*1 その他
・11月頃
・12月頃

2) 引継項目・内容



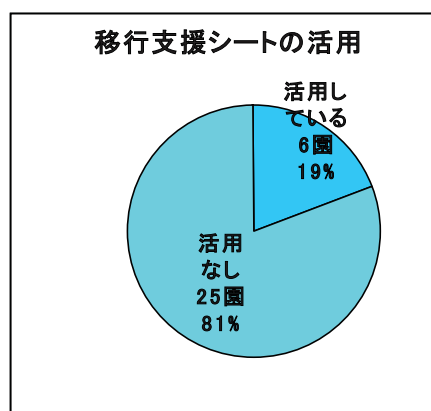
*1 その他
・福祉サービスの利用

保育所と同様、4歳児段階ということもあり、「数・文字・図形などの学習面」「手先の巧緻性」「運動面」を必要な項目・内容と答えた園は23～42%にとどまっていたが、その他については58%以上であり、特に保育所と同様、「人とかかわり・社会性」「不注意・多動性・衝動性」「診断名・医療連携の有無」は、90%以上であった。また、「日常生活習慣」94%、「家庭環境」87%と、この2つの項目に

ついては、幼稚園では保育所が考えているよりも、引継ぎに必要な項目ととらえているようだ。

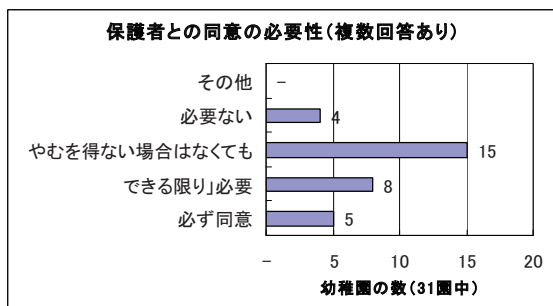
3) 移行支援シートの活用

保育所よりもやや活用率は高く、幼稚園31園中6園、19%であった。保育所よりやや高いのは、小学校が使用しているものをそのまま活用しているところがあるからだと思われる。



*1 活用様式
・市の独自1園
・園独自1園
・各医療機関1園など

4) 保護者との同意の必要性



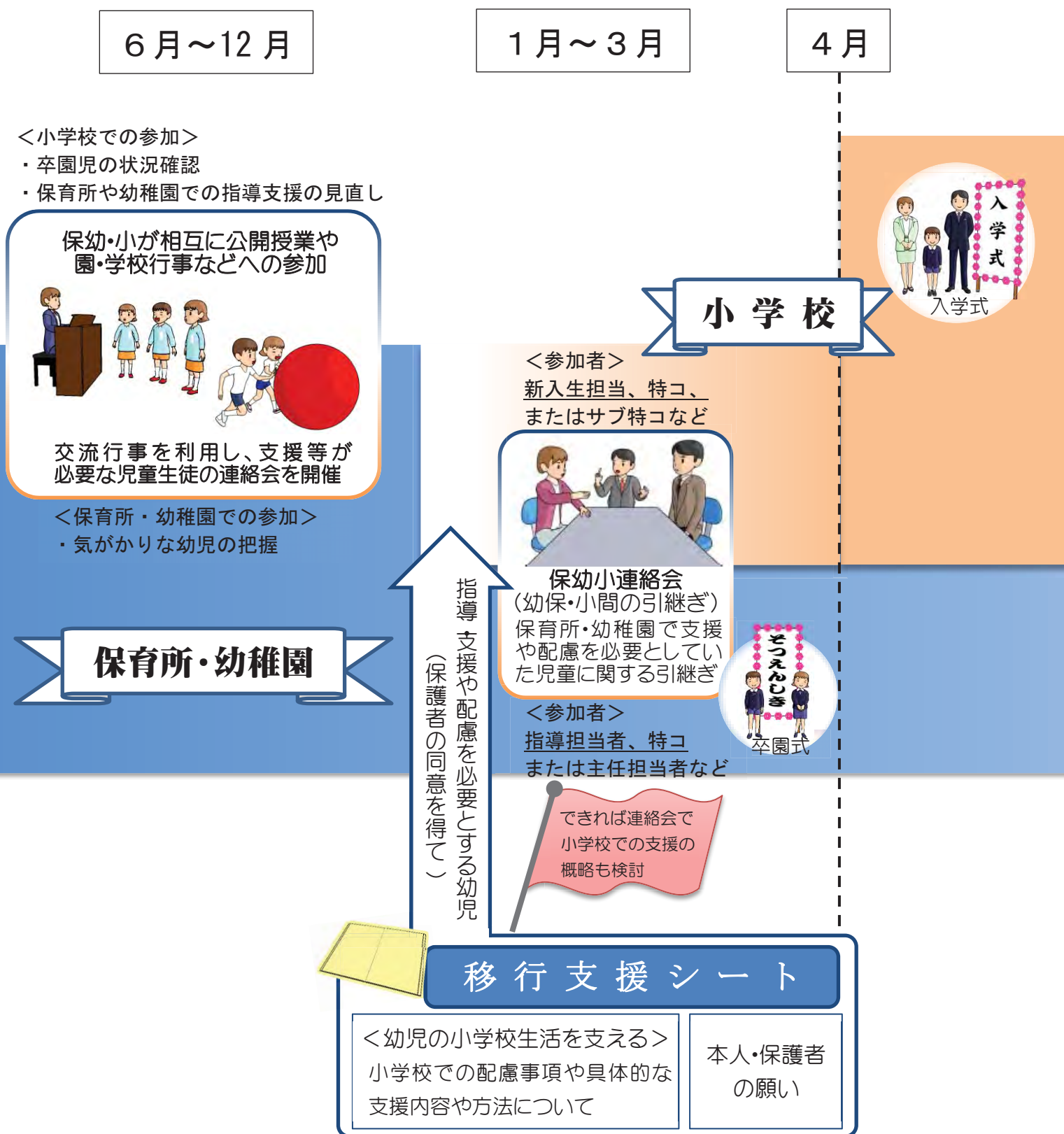
保護者との同意は「必ず」「できるだけ必要」と考えている幼稚園は、合わせて13園、42%であった。一方、「やむを得ない場合はなくても」「必要ない」という園はあわせて19園と61%に登り、幼稚園では、同意の難しさをかなり実感としてとらえているようであった。

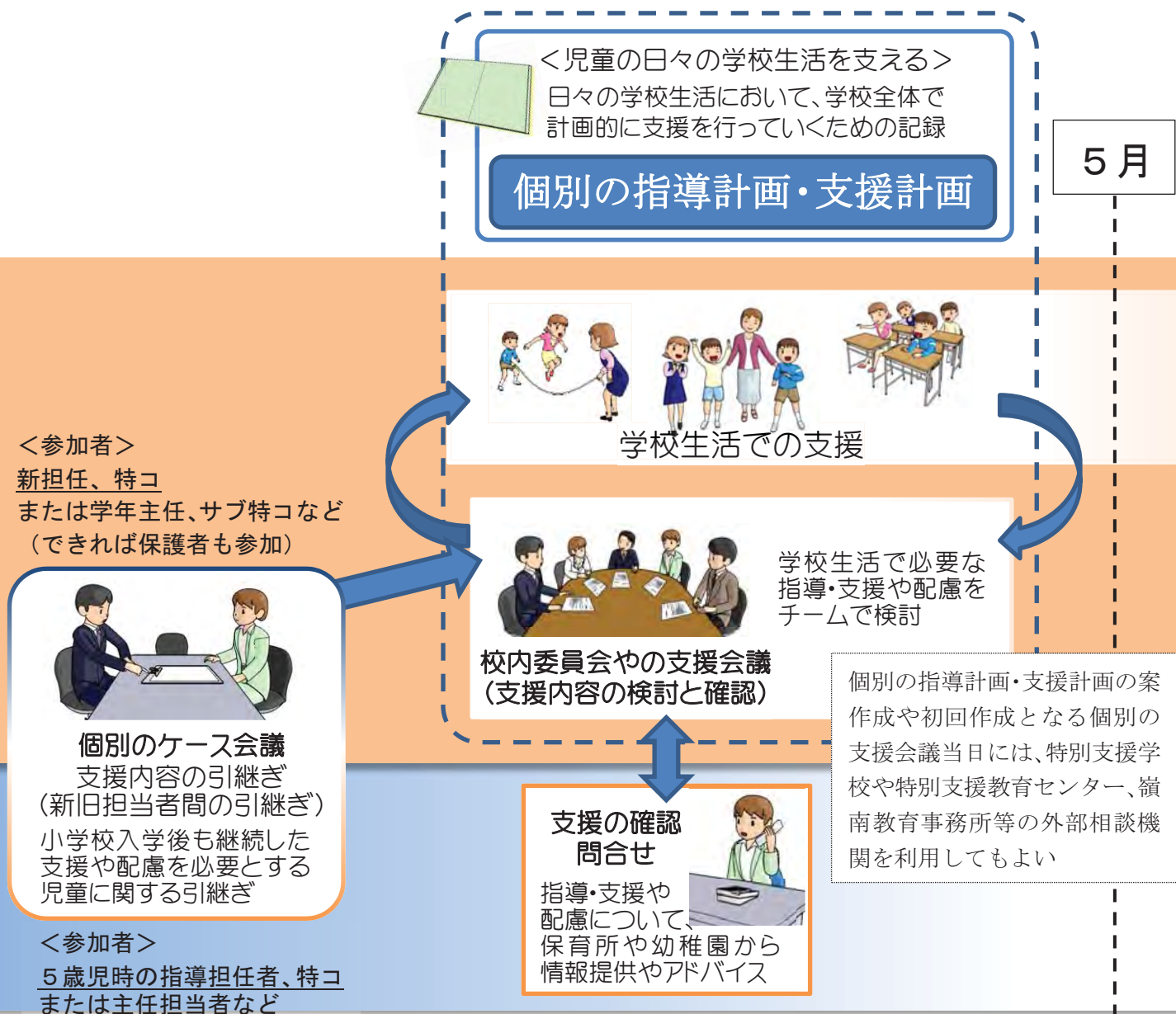
5) その他、移行支援の課題と考えていることなど(アンケートの生の声)

- ・内容をしっかり引き継ぐことはもちろん大切だが、対象園児の保育所での生活の様子も見たい(観察したい)。しかし、その時間が十分とれない現状がある。
- ・支援が必要な園児について、保育所から先に連絡してもらえるとよい。
- ・正確な情報とそれら情報の共有化が必要。
- ・幼稚園側から聞いたことにしか答えを得られず、気になる行動が入園後分かることがあるので、気がかりなことに関しては保育所側から積極的に教えてほしい。
- ・移行支援の意味を理解していない園がまだあり、子どもの様子を正直に伝えてもらえないことがある。
- ・移行支援シートを活用する場合の、シートの作成と保管について(シートの形式、作成者、保管方法など)。
- ・保護者の同意がない場合への保護者対応の仕方。
- ・加配の職員がない場合の対応の仕方。
- ・人員が足りない。
- ・正規の職員の数、日頃の職員間の交流がないため、スムーズな情報伝達ができるかどうか不安である。
- ・保育所と交流はしているが、もっと話し合いの時間が必要。
- ・公立保育所とは幼保交流を通して、特別な支援を必要な園児だけでなく、すべての園児についての引継ぎが十分にできているので特に課題はない。また、私立保育所とも十分に引継ぎを行っている。
- ・当園は保育所との交流を行っているため、園児の姿も把握することができている。

Ⅱ 保育所・幼稚園→小学校

1 保育所・幼稚園から小学校への移行支援の概要図





2 解説

（１）保育所・幼稚園と小学校との連絡会について

①時期と場面

アンケートによると、保育所・幼稚園ともに１月に連絡会を行うのが良いと回答した園が約半数占めていたが、小学校では１月１８％で、２月３７％となっている。２月は、保育所２５％、幼稚園０％という結果で、開催時期については、相互によく相談、連携しながらより慎重に決める必要があると思われる。

また、保育所・幼稚園、小学校ともに共通することとしては、１月以前にも就学時健康診断や保幼小連絡会の機会を活用して、支援が必要な幼児の連絡会を設けたいと考えていること、また、入学後、担任が決まってからより丁寧に連絡会をもったり、文書だけでなく互いに子どもや指導・支援の様子を見たりすることも大切であると考えていることが分かった。

②最初の連絡会（１～３月・園と学校との引継ぎ）

１）連絡会の日程調整

保育所・幼稚園と小学校の互いの都合の良い時期を調整して、できれば小学校側から保育所・幼稚園を訪問し、対象の幼児を観察した後、連絡会をもつことがよいと思われる。

２）メンバー

保育所・幼稚園側は幼児の指導担当者と特別支援コーディネーター（以下「特コ」という。）など支援を必要とする幼児の窓口役の職員、または主任担当者、学校側は新入生担当者と特コ、またはサブ特コなど、両者からともに少なくとも２名ずつ参加するのがよいだろう。２名ずつ参加することで情報の内容に誤解や行き違いが生じることがあっても、修正できる。また、異動で参加者のどちらかがいなくなっても、２度の連絡会で確実に情報をつなぎ、伝達漏れなどがあっても補うことができる。

３）保育所からの引継内容

保育所・幼稚園から伝える情報として、以下のような内容が必要と思われる。

- ・日常生活習慣
- ・家庭環境
- ・幼児本人の特性（人とのかかわり・社会性、不注意・多動・衝動性やその他の行動面、学習面に関する事など）や診断名など
- ・保育所・幼稚園で行っていた指導・支援や配慮について、その内容や方法（本人の特性に応じたものなど）

- ・連携している医療・福祉の機関など
- ・本人の得意な面、苦手な面、好きなことなど（小学校での指導・支援のヒントになる）
- ・入学後に予想されるつまずき（自分の教室・机・ロッカーの位置など、着替えに時間がかかることなど）
- ・本人や保護者の願いや思いなど（必要不可欠）

以上の内容を口頭ではなく、移行支援シートなどを使って伝え漏れがないよう、しっかり引き継ぐことが必要である。

4) 小学校での指導・支援、支援体制などの検討

小学校側は、この連絡会の際に、保育所・幼稚園からの情報を聞きながら、暫定的なものでも、現時点で考える得る支援体制や指導・支援を検討することが望ましい。保育所・幼稚園側と一緒に検討したことを、移行支援シートに書き込んで、入学後の指導・支援に備えることができる。

③2度目の連絡会（小学校の担任が決まった後）

1) 連絡会の日程調整

開催は、小学校側から新学期が始まって間もない時期4～5月初旬に日程調整するとよいと思われる。できれば保護者にも参加を要請し、個別ケース会議として開くことが望ましい。

2) メンバー

2度目の連絡会では、保育所・幼稚園側は5歳児時の指導担当者、特コ役の職員、または主任担当者が参加。

小学校側は、新担任と特コ、またサブ特コが参加。保護者も加わることができればベストである。

3) 引継ぎ及び検討内容

前回作成した移行支援シートで引継内容を再確認しながら、保育所・幼稚園と小学校の合同で個別の支援計画を作成するとよい。会の開催前に、小学校側は、計画の原案を作成しておくとういだろう。

（2）その他の移行支援、連携の場面について

①公開授業、学校開放、学校行事への参加について

幼稚園・保育園や小学校が行っている公開授業や公開保育、発表会や運動会など公開の行事などに、互いの職員が参加し、当日や後日に情報交換の場をもつとよい。互いに卒園児や来年度以降の入園予定の園児の様子を見たり、支援の状況を確認し合ったりすることができる。

3 移行支援シート

(1) シートの様式(サマリーシート)

引き継ぎのためのサマリーシート	
これまでの成長・発達の様子や変化 記入日 [/ /] 記入者 [] (人とのかかわり・社会性) (コミュニケーション) (興味・こだわり) (不注意) (多動性・衝動性) (学習面・運動面、その他感覚等) (知的障害の有無) (身体について)	
これまでの支援内容・方法、工夫や配慮したことなど(教材・環境設定・働きかけなどの工夫や対応など) 記入日 [/ /] 記入者 []	
引き継ぎ後も配慮してほしいことなど(これまでの支援で伸びたことやこれからも伸ばしてほしいことなど) 記入日 [/ /] 記入者 []	
保護者から引き継ぎ後の生活に関する希望や配慮してほしいことなど(これからの学校生活での心配なことなど) 記入日 [/ /] 記入者 []	

(2) 移行支援シートの記入上の留意点

①作成にあたって

小学校との連絡会等で年度末にケースの話をするときの資料として、保育所・幼稚園側が作成する。

作成にあたっては、必ず保護者の同意をとること。

記入は、保育所の担当保育士や幼稚園の担任または特コ役の職員が行う。一人で記入するのではなく、対象幼児を支えるメンバー全員で支援チーム会議において話し合いながら記入することが望ましい。あるいは、少なくともそのメンバーの意見を個別に聴取しながら記入する。

②「引き継ぎ後も配慮してほしいことなど」「保護者から引き継ぎ後に関する希望や配慮してほしいことなど」の欄の幼稚園からの記入について

作成にあたって最初は、保育所・幼稚園で記入するが、小学校との連絡会等の際に、小学校ができる指導・支援・配慮について検討し、その概要を手書きでよいので書き加えると、実際の小学校での支援の移行につながやすい。

③承認

保育所・幼稚園での記入が終わった段階で、保護者からの承認を受け、シートの下欄外に保護者の署名と捺印をもらう。

4 参考資料：アンケート調査

(1) 保育所・幼稚園

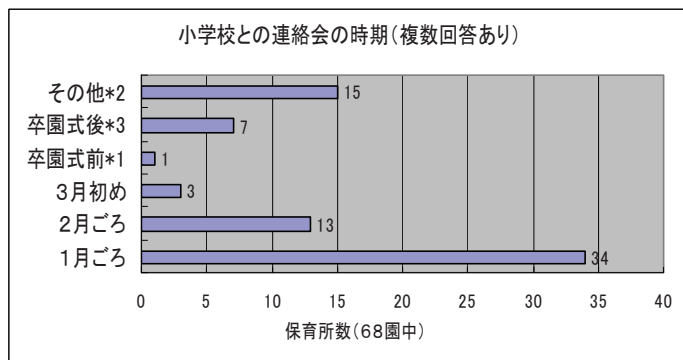
① アンケート用紙

アンケート ③																
特別な支援が必要な園児のための移行支援アンケート (幼稚園・保育所→小学校) 幼稚園・保育所用 特別な支援が必要な園児について、幼稚園・保育所から小学校への支援の移行(情報の伝達等)をスムーズにするため、以下のアンケートにお答えください。 ※適切な項目の口の中に○や数字をリストから選んで記入してください。その他等の場合には、の中に具体的に書きください。																
1 幼稚園と個別ケースの連絡会(支援の移行)を行う時期はいつの時期が良いでしょうか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①1月ごろ</td> <td>☐ ②2月ごろ</td> <td>☐ ③3月初め</td> <td>☐ ④卒園式(月 日)の前</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑤卒園式(月 日)の後</td> <td colspan="3">☐ ⑥その他の時期 </td> </tr> </table>		☐ ①1月ごろ	☐ ②2月ごろ	☐ ③3月初め	☐ ④卒園式(月 日)の前	☐ ⑤卒園式(月 日)の後	☐ ⑥その他の時期 									
☐ ①1月ごろ	☐ ②2月ごろ	☐ ③3月初め	☐ ④卒園式(月 日)の前													
☐ ⑤卒園式(月 日)の後	☐ ⑥その他の時期 															
2 引継ぐ内容としては、こういった項目が必要でしょうか？(複数回答可) <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①人とかかわり・社会性</td> <td>☐ ②コミュニケーション</td> <td>☐ ③興味・こだわり</td> </tr> <tr> <td>☐ ④不注意・多動性・衝動性</td> <td>☐ ⑤情緒面</td> <td>☐ ⑥数や文字、図形などの学習面</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑦運動面</td> <td>☐ ⑧手先の巧緻性</td> <td>☐ ⑨日常生活習慣</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑩得意なこと・苦手なこと</td> <td>☐ ⑪その他気がかりな行動</td> <td>☐ ⑫家庭環境</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑬診断名・医療連携の有無</td> <td>☐ ⑭その他 </td> <td></td> </tr> </table>		☐ ①人とかかわり・社会性	☐ ②コミュニケーション	☐ ③興味・こだわり	☐ ④不注意・多動性・衝動性	☐ ⑤情緒面	☐ ⑥数や文字、図形などの学習面	☐ ⑦運動面	☐ ⑧手先の巧緻性	☐ ⑨日常生活習慣	☐ ⑩得意なこと・苦手なこと	☐ ⑪その他気がかりな行動	☐ ⑫家庭環境	☐ ⑬診断名・医療連携の有無	☐ ⑭その他 	
☐ ①人とかかわり・社会性	☐ ②コミュニケーション	☐ ③興味・こだわり														
☐ ④不注意・多動性・衝動性	☐ ⑤情緒面	☐ ⑥数や文字、図形などの学習面														
☐ ⑦運動面	☐ ⑧手先の巧緻性	☐ ⑨日常生活習慣														
☐ ⑩得意なこと・苦手なこと	☐ ⑪その他気がかりな行動	☐ ⑫家庭環境														
☐ ⑬診断名・医療連携の有無	☐ ⑭その他 															
3 「2」のような項目を引継ぐための移行支援シートを活用していますか？ それは、どこか様式を作成したものでですか？(例: 特別支援教育センター、市教委) ☐ ①活用している→ の様式 ☐ ②活用していない																
4 支援を引継ぐことの保護者の同意は、いつ得られ得るとよいと思いますか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①小学校との連絡会の直前</td> <td>☐ ②年度の始め</td> </tr> <tr> <td>☐ ③年度のできる限り早期 </td> <td>☐ ④その他 </td> </tr> </table>		☐ ①小学校との連絡会の直前	☐ ②年度の始め	☐ ③年度のできる限り早期 	☐ ④その他 											
☐ ①小学校との連絡会の直前	☐ ②年度の始め															
☐ ③年度のできる限り早期 	☐ ④その他 															
5 保護者との同意を得る際に課題となっていることは何ですか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①園児の状況についての認識のズレ</td> <td>☐ ②保護者の考えが聞きづらい</td> </tr> <tr> <td>☐ ③発達障害等、障害の理解の難しさ</td> <td>☐ ④小学校での支援が見通せない</td> </tr> <tr> <td colspan="2">☐ ⑤その他 </td> </tr> </table>		☐ ①園児の状況についての認識のズレ	☐ ②保護者の考えが聞きづらい	☐ ③発達障害等、障害の理解の難しさ	☐ ④小学校での支援が見通せない	☐ ⑤その他 										
☐ ①園児の状況についての認識のズレ	☐ ②保護者の考えが聞きづらい															
☐ ③発達障害等、障害の理解の難しさ	☐ ④小学校での支援が見通せない															
☐ ⑤その他 																
6. その他の支援を移行するために課題となっていることは何ですか？ 																
※当園は、公立ですか？私立ですか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①公立</td> <td>※記入者の所属の市町村名 </td> </tr> <tr> <td>☐ ②私立</td> <td>※記入者の職名 </td> </tr> </table>		☐ ①公立	※記入者の所属の市町村名 	☐ ②私立	※記入者の職名 											
☐ ①公立	※記入者の所属の市町村名 															
☐ ②私立	※記入者の職名 															

① 結果

1) 小学校との個別連絡会の時期

i 保育所



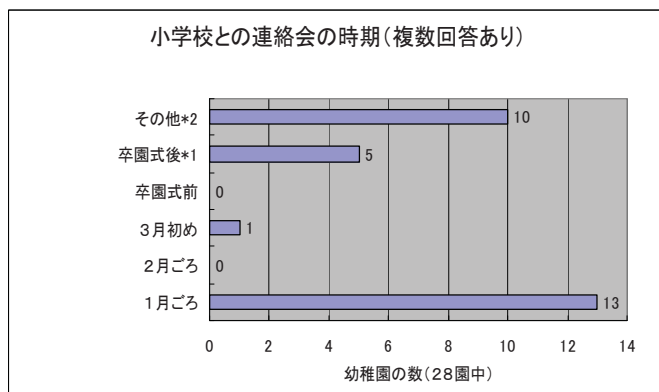
- *1 卒園前: 3/23
 *2 卒園後: 3/20 ~ 25 7園
 *3 その他
 ・5歳児の4月から保護者との懇談会の機会に 5園
 ・就学時健診前後 4園
 ・地区の保小連絡会などの機会を利用し、秋ごろ 4園
 ・小学校に入学後すぐ 2園

保育所と小学校との連絡会では、半数の34園が1月ごろ、1/5の13園が2月ごろが良いと答えている。また、卒園後の3月20日ごろとの答えが7園あった。

その他では、より早期にということで、5歳児の4月以降から保護者との懇談会の機会に行うという園が5園あった。就学時健診や地区の保小連絡会などの機会を利用して、個別の連絡会を秋ごろ行うという園が8園あった。

ii 幼稚園

幼稚園と小学校との連絡会でも、



- *1 卒園後: 3/15 ~ 20 5園
 *2 その他
 ・5歳児の夏休みなどなるべく早い機会に 4園
 ・就学時健診前 5園
 ・地区の幼小連絡会などの機会を利用し、秋ごろ 1園

保育所同様、半数に近い13園が1月ごろが良いと答えている。また、卒園式直後の3月中旬との答えが5園あった。

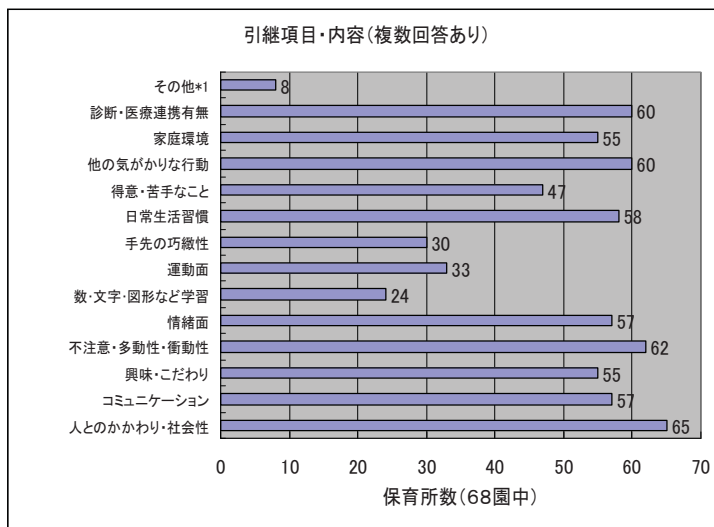
その他では、やはりより早期にということで、夏休みや就学時健診、幼小連絡会などの機会を利用して、個別の連絡会を行うという園が10園あった。

2) 引継項目・内容

i 保育所

引継ぎの内容として必要だと答えた項目は、「手先の巧緻性」「運動面」「数・文字・図形などの学習面」が半数以下の保育所にとどまったが、他の項目は、70～96%であった。

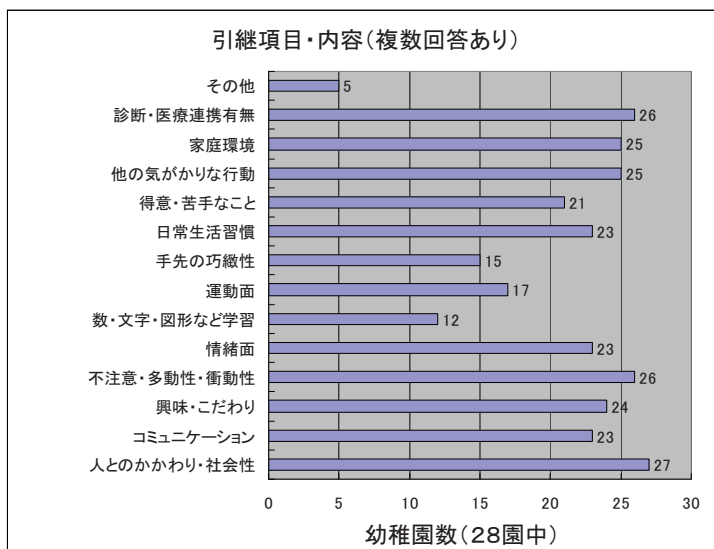
自閉症やADHDと関連の深い「人とのかかわり・社会性」「不注意・多動性・衝動性」の割合が高く、逆に学習障害と関連の深い「手先の巧緻性」「数・文字・図形などの学習面」が低い割合にとどまっている。



*1 その他
・保育所での支援 3園

ii 幼稚園

引継ぎの内容として必要だと答えた項目は、保育所と同様に学習障害と関連の深い「手先の巧緻性」「数・文字・図形などの学習面」が43～54%と低い割合に留まった。また、自閉症やADHDと関連の深い「人とのかかわり・社会性」「不注意・多動性・衝動性」の割合は93～96%と高かった。

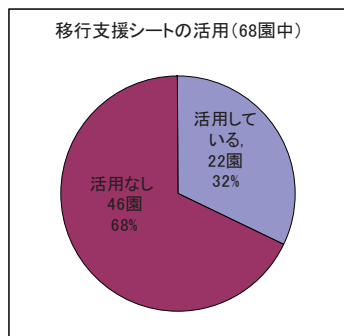


*1 その他
・幼稚園での効果的な支援など

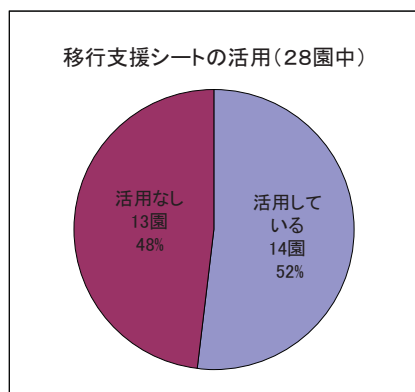
3) 移行支援シートの活用

i 保育所

保育所68園中、移行支援シートを活用していたのは32%の22園だった。そのうち特別支援教育センターや特別支援学校の様式を使っている園が8園、ふくいっ子ファイル3園、市町独自の様式は7園だった。



*1 活用様式
 ・特別支援教育センター 6園
 ・市町教委 6園
 ・市町小学校 1園
 ・子育てファイルふくいっ子 3園
 ・近隣の特別支援学校 2園



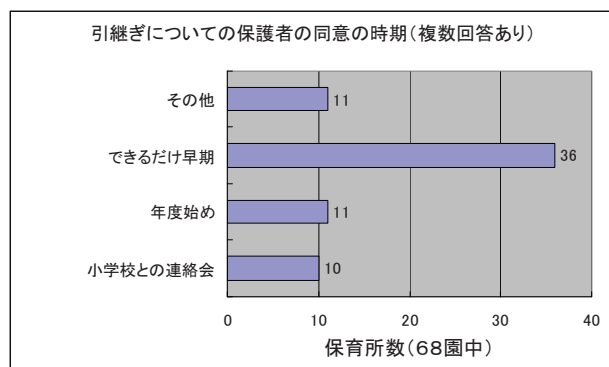
ii 幼稚園

幼稚園28園中、移行支援シートを活用していたのは半数以上の52%の14園だった。そのうち特別支援教育センターや特別支援学校の様式を使っている園が8園、ふくいっ子ファイル3園、市町独自の様式は7園だった。

*1 活用様式

・市町教委、市町保育担当課	6園	・市町小学校	3園
・特別支援教育センター	1園	・特別支援学校	1園
・他機関	1園		

4) 引継ぎについての保護者の同意の時期



i 保育所

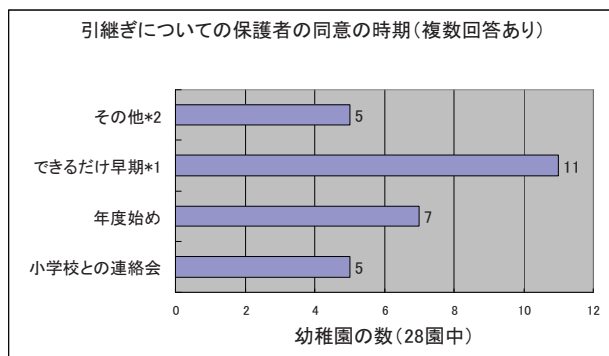
保護者の同意を得る時期について、できるだけ早期にと考えている保育所は、68園中約53%36園、年度始めと考えているのは16%11園だった。

*1 その他

・5月ごろ	8園	・6月	1園
・1月の終わりごろ	1園		

ii 幼稚園

保護者の同意を得る時期について、できるだけ早期にと考えている幼稚園は、38園中約42%11園、年度始めと考えているのは25%7園だった。

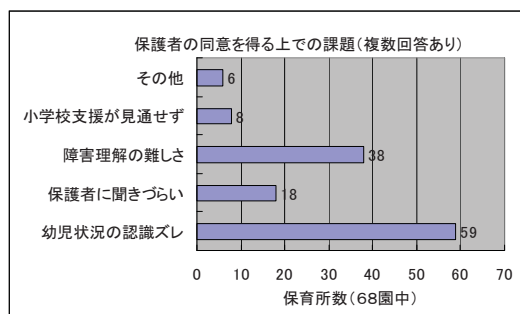


*1 できるだけ早期

- ・夏休み
- ・前年度から

*2 その他

- ・幼小連絡会まで
- ・3学期中
- ・一人一人違う



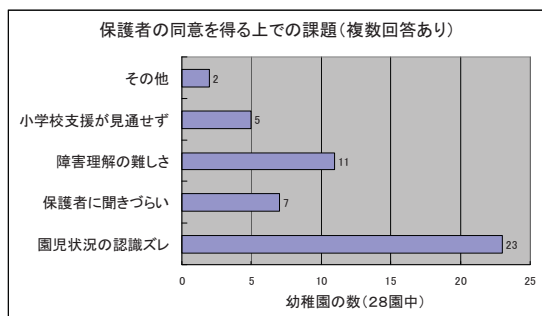
*1 その他

- ・保護者がショックを受けない配慮
- ・家族間で思いが異なることなど

5) 保護者の同意を得る上での課題

i 保育所

保護者の同意を得る上での課題としては、「幼児の状況についての保育所と保護者の認識のズレ」が59園の87%、「障害理解の難しさ」も38園の56%の保育所が挙げていた。保護者の幼児の状況や障害の理解を促すことが課題であることが分かった。



*1 その他

・園との信頼関係が崩れることが心配

・保護者が我が子の障害を認めるのはつらいことで、認められないのは当然のこと

ii 幼稚園

保護者の同意を得る上での課題としては、「園児の状況についての保育所と保護者の認識のズレ」が23園の82%、「障害理解の難しさ」は11園の40%の保育所が挙げていた。保護者の園児の状況や障害の理解を促すことが課題であることが分かった。

6) その他、移行支援の課題と考えていること(アンケートの生の声)

i 保育所

- ・保育所で支援をしても、受け入れ体制がまだまだ不十分な点が見られる。
- ・支援の移行は1回ではなく、何回か行う方がよいと思う。小学校の担当の先生が転勤されたり、担任が決まっていなかったりして、情報の伝達等が途切れてしまう。新年度に担任の先生との支援会議がもてるという。
- ・小学校の支援がなかなか見通せない部分がある。また、支援が必要な子がどう学校生活を送っているのかの情報が得られず、今後に役立てていきたいので入学後の状況を知りたい。
- ・幼児の状況についての認識のズレが、保育所側と小学校側にある。
- ・保育所の保育と小学校教育の差によるきめ細かなつながりをし、スムーズに移行すること。
- ・連絡会や支援シート等の文書だけでなく、支援を要する幼児の様子を実際に保育所に見に来てほしい。
- ・学校との交流について、校長、園長どうしの交流や、年に何度か園児と小学生との交流をもっていき、もっと気軽に行き来できれば、今以上に移行がスムーズにできるのではと思う。
- ・小学校の対応が様々で異なる。支援を引き継ぐために、連携を望んでいる学校と、支援を受けたいか受けたくないかの保護者の希望次第という考えの学校もあり、保育所としては格差に戸惑う。
- ・親の同意が得られていない場合であっても、丁寧な支援の継続のあり方。
- ・保護者にショックを与えないように言葉を選んで話をするためか、かえって真意が伝わりにくい。
- ・「一度相談してみたら」と勧めるが、保護者のためらいが強い。
- ・子どもの支援をするにあたり、家庭の状況が大きく影響していることもあり、子ども個人のことのみを移行すればよいのか、どこまで情報を共有すべきなのか…。
- ・非日常的なことが苦手な幼児の場合、入学式の練習を事前にやるとよいことを提案すること。
- ・1才半健診・3歳児健診の時、気になる子は何らかで引っかかる。そういう子は専門機関にかかる可能性も大きいので(全員ではないが)、できれば健診後にでも保護者の同意など得られるようになると、早期発見、早期治療ができるのではないかとと思う。
- ・早期に気がついたときから、連続的な子ども・母親の支援と各機関の連携・記録があると良い。
- ・就学の移行先について、医療等の専門機関の意見と、保育所の認識とのズレを感じる。
- ・支援会議などを開催する場合、専門機関や、保護者、小学校、保育所がつながるよう、移行支援のための事務局があると、調整などがスムーズにできると思う。

ii 幼稚園

- ・連絡会はシートを活用して面談をしながらで行うのが良いと思うが、小学校の担当者(または担任)は異動で、新年度に代わっている可能性があるため、その引継ぎが保証されるのか。
- ・小学校では、どんな情報が必要なのか分からないので、一方的な情報になっていないか心配。
- ・小学校で、その子の姿をどこまで理解し、個人的な対応がとれる状況を作れるかどうか。
- ・幼稚園と小学校の教師の子どもに対する視点の違いから起因する、その子どもの認識のズレ。
- ・生活環境や様々なことに対する保護者の考えとの相違があり、話し合いがスムーズに進まない。
- ・入学後の様子も知ることができるとよい。
- ・特別支援教育センターや市教委への相談、専門機関の診断を受ける場合、日常の様子を記したアンケートを保護者の同意を得て提出しなければいけないこと。ありのままに書けないことがある。
- ・園児が新しい環境になかなか慣れにくい場合、環境が変わった時の園児の支援方法。

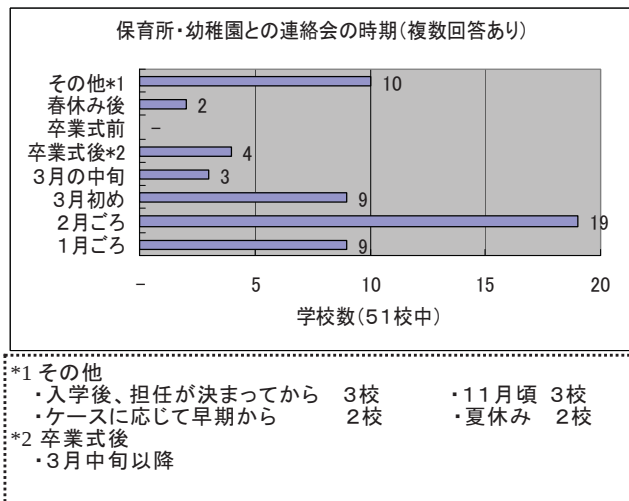
(2) 小学校

① アンケート用紙

アンケート 4																
特別な支援が必要な園児のための移行支援アンケート (幼稚園・保育所→小学校) 小学校用																
特別な支援が必要な園児について、幼稚園・保育所から小学校への支援の移行(情報の伝達等)をスムーズにするため、以下のアンケートにお答えください。 ※適切な項目の□の中に○や数字をリストから選んで記入してください。その他等の場合には、の中に具体的にお書きください。																
1 幼稚園・保育所と個別ケースの連絡会(支援の移行)を行う時期、またはどの時期が良いでしょう <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①1月ごろ</td> <td>☐ ②2月ごろ</td> <td>☐ ③3月初め</td> <td>☐ ④3月の中旬</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑤卒業式の後</td> <td>☐ ⑥卒業式の前</td> <td>☐ ⑦春休み後</td> <td>☐ ⑧その他 </td> </tr> </table>		☐ ①1月ごろ	☐ ②2月ごろ	☐ ③3月初め	☐ ④3月の中旬	☐ ⑤卒業式の後	☐ ⑥卒業式の前	☐ ⑦春休み後	☐ ⑧その他 							
☐ ①1月ごろ	☐ ②2月ごろ	☐ ③3月初め	☐ ④3月の中旬													
☐ ⑤卒業式の後	☐ ⑥卒業式の前	☐ ⑦春休み後	☐ ⑧その他 													
2 引継ぐ内容としては、こういった項目が必要でしょうか？(複数回答可) <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①人とのかかわり・社会性</td> <td>☐ ②コミュニケーション</td> <td>☐ ③興味・こだわり</td> </tr> <tr> <td>☐ ④不注意・多動性・衝動性</td> <td>☐ ⑤情緒面</td> <td>☐ ⑥数や文字、図形などの学習面</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑦運動面</td> <td>☐ ⑧手先の巧緻性</td> <td>☐ ⑨日常生活習慣</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑩得意なこと・苦手なこと</td> <td>☐ ⑪その他気がかりな行動</td> <td>☐ ⑫家庭環境</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑬診断名・医療連携の有無</td> <td>☐ ⑭その他 </td> <td></td> </tr> </table>		☐ ①人とのかかわり・社会性	☐ ②コミュニケーション	☐ ③興味・こだわり	☐ ④不注意・多動性・衝動性	☐ ⑤情緒面	☐ ⑥数や文字、図形などの学習面	☐ ⑦運動面	☐ ⑧手先の巧緻性	☐ ⑨日常生活習慣	☐ ⑩得意なこと・苦手なこと	☐ ⑪その他気がかりな行動	☐ ⑫家庭環境	☐ ⑬診断名・医療連携の有無	☐ ⑭その他 	
☐ ①人とのかかわり・社会性	☐ ②コミュニケーション	☐ ③興味・こだわり														
☐ ④不注意・多動性・衝動性	☐ ⑤情緒面	☐ ⑥数や文字、図形などの学習面														
☐ ⑦運動面	☐ ⑧手先の巧緻性	☐ ⑨日常生活習慣														
☐ ⑩得意なこと・苦手なこと	☐ ⑪その他気がかりな行動	☐ ⑫家庭環境														
☐ ⑬診断名・医療連携の有無	☐ ⑭その他 															
3 「2」のような項目を引継ぐための移行支援シートを活用していますか？ それほどこか様式を作成したものでですか？(例：特別支援教育センター、市教委) ☐ ①活用している()の様式 ☐ ②活用していない																
4 支援を引継ぐ際に、保護者との同意が必要と考えていますか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①必ず必要</td> <td>☐ ②できる限り必要</td> </tr> <tr> <td>☐ ③やむを得ない場合はなくても仕方ない</td> <td>☐ ④必要ない</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑤その他</td> <td></td> </tr> </table>		☐ ①必ず必要	☐ ②できる限り必要	☐ ③やむを得ない場合はなくても仕方ない	☐ ④必要ない	☐ ⑤その他										
☐ ①必ず必要	☐ ②できる限り必要															
☐ ③やむを得ない場合はなくても仕方ない	☐ ④必要ない															
☐ ⑤その他																
5 そのほかの支援を移行するために課題となっていることは何ですか？																
※当校は、公立ですか？私立ですか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①公立</td> <td>※記入者の所属の市町村名 </td> </tr> <tr> <td>☐ ②私立</td> <td>※記入者の職名 </td> </tr> </table>		☐ ①公立	※記入者の所属の市町村名 	☐ ②私立	※記入者の職名 											
☐ ①公立	※記入者の所属の市町村名 															
☐ ②私立	※記入者の職名 															

②結果

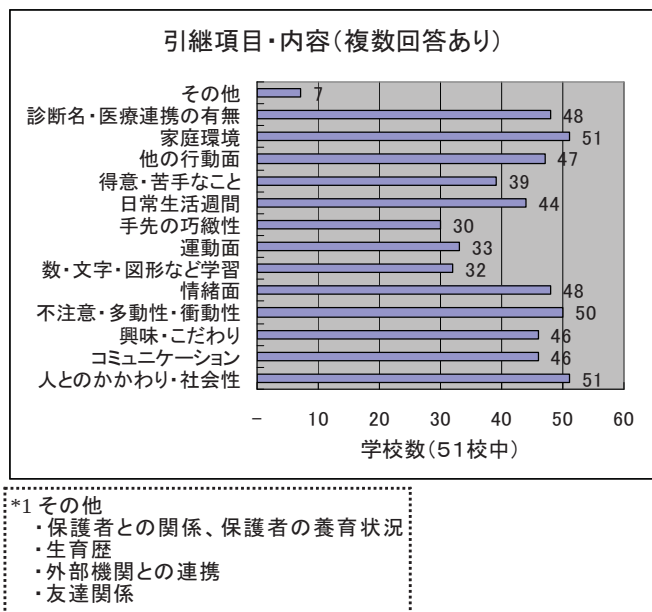
1) 保育所・幼稚園との連絡会の時期



保育所・幼稚園との連絡会では、小学校51校中19校、37%が2月ごろ、1月、3月はいずれも9校、18%が良いと答えている。保育所、幼稚園が1月ごろが良いとの答えが多かったのとは、ズレがある。

その他、11月に行われる就学時健診や夏休みの機会などを利用し、早期から行うのがよいとするのが7校あった。また、春休みや新担任が決まった後、丁寧につなぐという学校もあった。

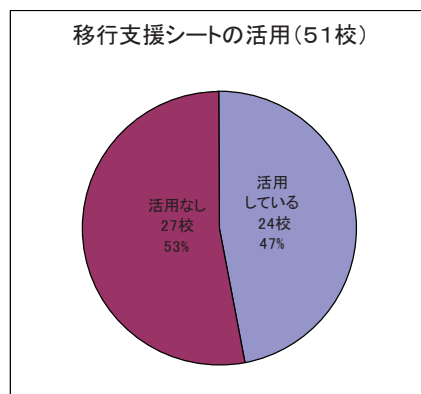
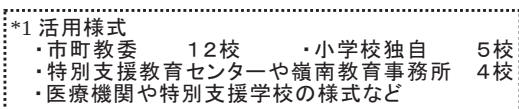
2) 引継項目・内容



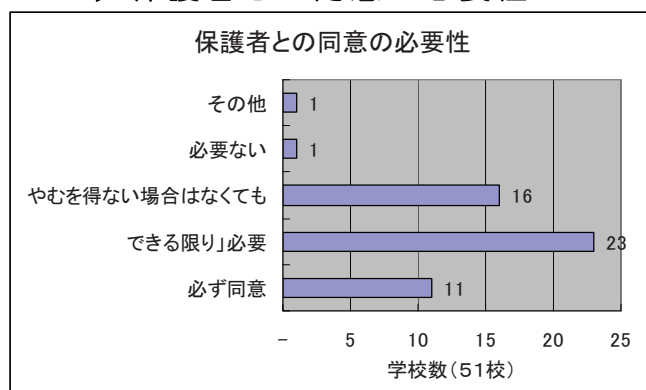
保育所・幼稚園ほどではないが、学習障害との関連が深い「手指の巧緻性」や「数・文字・図形などの学習面」の項目については、他の項目と比べると引継ぎに必要な項目・内容として答えた小学校の割合は低く、約6割であった。また、自閉症やADHDとの関連が深い「人とのかかわり・社会性」「不注意・多動性・衝動性」の項目は、ほとんどの小学校で必要であると答えていた。

3) 移行支援シートの活用

小学校51校中、半数近い24校が移行支援シートを活用していた。



4) 保護者との同意の必要性



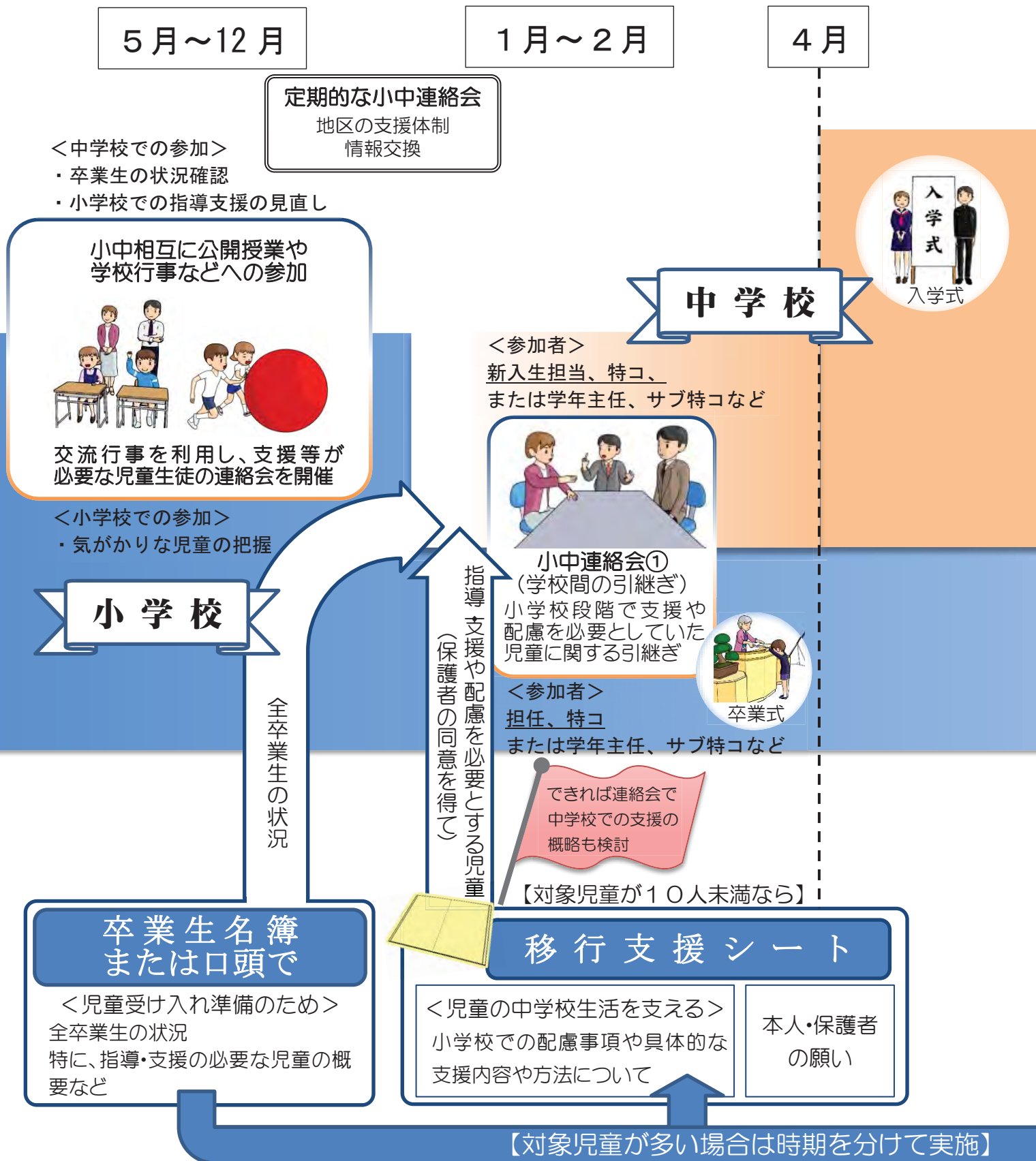
保護者との同意は「必ず」「できるだけ必要」と考えている学校は、51校中34校と全体の67%を占めた。一方、「やむを得ない場合はなくても」という学校も16校あり、同意が必要と考えつつも、保護者の同意を得ることの難しさが課題として大きいことがうかがえる。

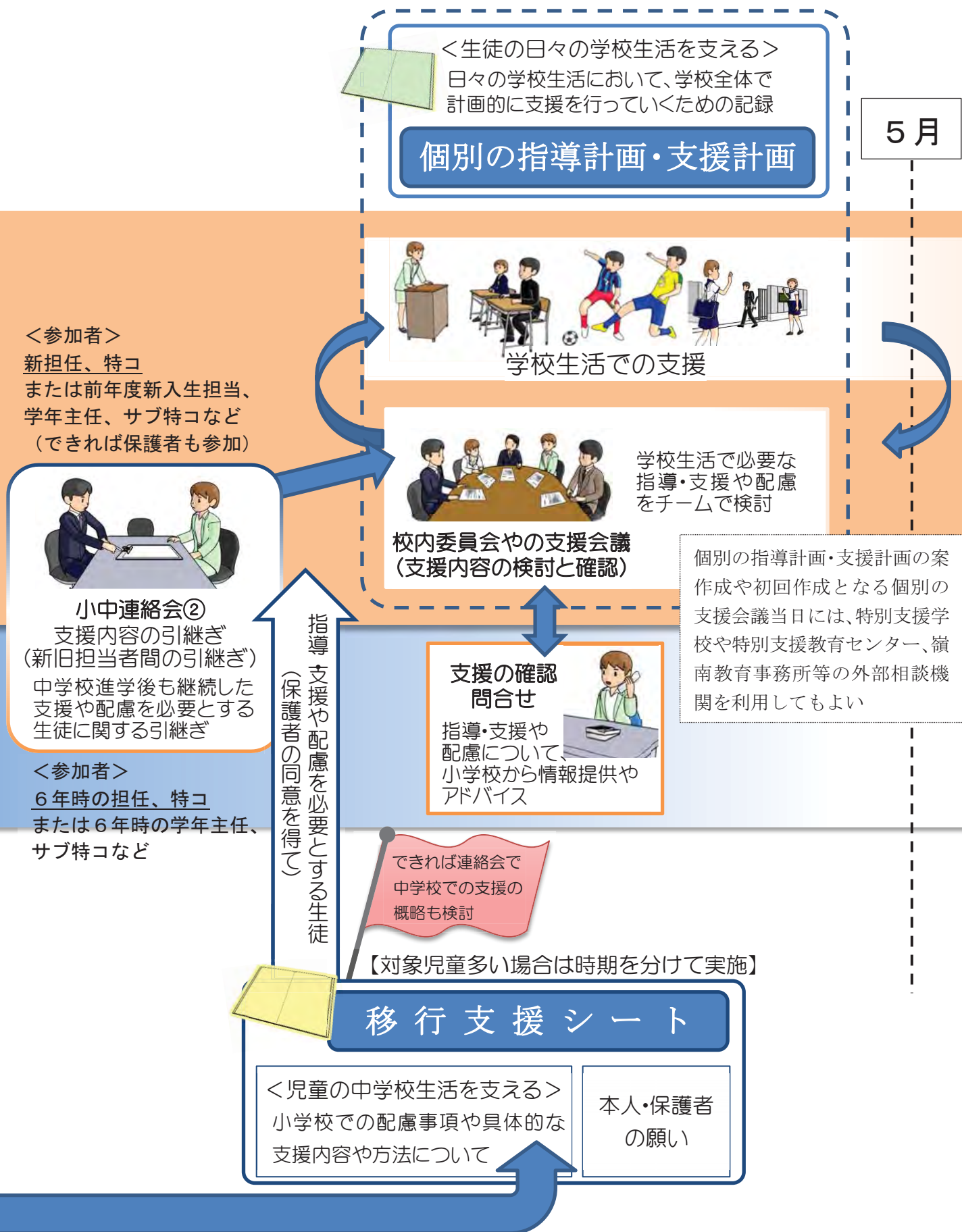
5) その他、移行支援の課題と考えていることなど(アンケートの生の声)

- ・保護者が、自分の子どもの状態についてどう認識しているのかが、支援の方向性を決定する上で重要。
- ・特別支援学級が適当と判断されても、保護者が普通学級を希望される場合。
- ・支援の子を取り巻く友人の保護者の共通理解。
- ・どのような療育を受けてきたか。
- ・保育所では、支援の必要な子に対して(一人に対して、一人対応など)どのような体制で支援しているか。
- ・幼稚園などから、園児の気がかりな行動や知的発達についての情報がない場合があること。
- ・保育所、幼稚園からの十分な情報が伝わってこない。
- ・園によって、引き継ぎ内容に差があるため、子どもの実態把握が難しいときがある。
- ・在園中に、園や保護者との話し合いをもつことが難しい。
- ・保護者との連携・連絡が行えるように、いつでも支援が必要と思われる園児に対する幼保との連絡会等をもちたいと考える。
- ・保育所で支援について聞いていても学校に入ってみないと分からないこともある。
- ・支援を必要とする園児の見極めをどのようにしたらよいか。
- ・移行支援した内容を実際の担任に伝えることや、校内での共通理解。(学校側にも異動があり、うまく引き継がれなかったり、実際の担任が決まるのは4月になったりするのです。)
- ・年度末の多忙な時期ということもあり、日程調整等が非常に難しい。また、とることができても、勤務時間外となり、負担が非常に大きい。
- ・市内共通で、幼→小→中と通して使っていけるような支援シートがあるとよいと思う。
- ・支援シートだけでなく、事前に該当の幼児の所属園などに行動観察に訪問したり、直接保護者や担任など関係者と話し合う移行支援会議をもったりすることが必要。丁寧につなごうとするほど時間の確保は大切。
- ・小学校のコーディネーター(教員)が全ての気がかりな子について移行支援シートを作成していく作業にかかわることは難しく、やはり特別支援教育センター等の機関に携わっていただくことがかなり必要。
- ・小学校に入学した後も必要があれば、支援の継続をしていけると良い。
- ・移行支援後の経過報告会が計画的には実施されていないこと。
- ・支援を行う人数が、保育所・幼稚園と学校では異なり(少ない)十分な支援が行えない。かかわる教職員が不足。

Ⅲ 小学校→中学校

1 小学校から中学校への移行支援の概要図





2 解説

(1) 小中連絡会について

①時期と場面

アンケートによると、小、中学校とも開催時期の回答は2月がよいと答えた学校が一番多いが、早い学校では1月、小学校では遅くとも3月初めには大半の学校が実施したいとの結果が出た。中学校では、3月初めは、卒業式や入試などで慌ただしくなる時期でもあり、あまり好ましい時期ではないようだ。

また、1回だけではなく、連携や情報の伝達を詳細で確かなものにするため、中学校の新担任の決定後の春季休業中、もしくは入学後、中学校の新担任とともに2度目の連携会を開催する学校もあり、よりよい方法であると思われる。

②最初の連絡会（1～2月末・学校間の引継ぎ）

1) 連絡会の日程調整

互いの教員が忙しい年度末の時期になるので、中学校が期日を決め、1～3日間で地域の各小学校の担当者と時間を設定して行うことがよいと思われる。

2) メンバー

最初の連絡会となるので、小学校側は担任、特別支援教育コーディネーター（以下「特コ」という。）、中学校側は新入生担当者と特コの各校とも少なくとも2名ずつ参加するのがよい。2名ずつ参加することで情報の内容に誤解や行き違いが生じることがあっても、修正が可能なためである。また、異動での情報伝達漏れもカバーできる。ただし、2名の参加者のうち両者とも異動する可能性がある場合には、例えば学年主任か、サブの特コ等が加わることができればベストであろう。

3) 小学校からの引継内容

小学校から伝える情報としては、以下のような内容が必要と思われる。

- ・児童本人の特性（学習、行動、社会性などの面）や診断名など
- ・連携している医療・福祉の機関など
- ・小学校で行っていた指導・支援、配慮について、その内容や方法（本人の特性に応じたものなど）
- ・本人の得意な面、苦手な面、好きなこと、習い事など（中学校での指導・支援のヒントになる）
- ・本人や保護者の願いや思いなど（必要不可欠）

以上の内容を、保護者の同意を得て、移行支援シートなどを使って伝え漏れないよう、しっかり引き継ぐことが必要である。

しかし、引継ぎが必要な人数が10名を越えるなど多い場合には、保護者の同意を得て、口頭や卒業生名簿を使って、児童の特性や指導・支援の概略のみを伝えとよい。また、この場合でも、小学校は、卒業式までには移行支援シートを作成し、中学校に提出することが望ましい。

4) 中学校での指導・支援、支援体制などの検討

中学校側は、この連絡会の際に、小学校からの情報を聞きながら、暫定的なものでも、その時点で考え得る支援体制や指導・支援を検討することが望ましい。小学校と一緒に検討したことを移行支援シートに書き込んで、入学後の指導・支援に備えることができる。

引き継ぐ児童数が多い場合は、学級編成や支援体制を整える際の最低限必要な情報として、児童の特性や指導・支援の情報についての概略を聴取する。

③2度目の連絡会（中学校の担任が決まった後）

1) 連絡会の日程調整

開催は、年度始めの春季休業中や新学期が始まって間もない頃に新担任が決定した後、中学校側から日程調整するとよいと思われる。できれば保護者にも参加を要請し、個別ケース会議として開くことが望ましい。

2) メンバー

2度目の連絡会では、小学校側は6年時の担任、特コが参加。どちらか、あるいは両者が異動している場合には6年時の学年主任やサブの特コが参加。

中学校側は、新担任と特コ、もしくは前年度の新入生担当、サブ特コが参加できるとよい。そこに保護者も加わることができればベストである。

3) 引継ぎ及び検討内容

前回作成した移行支援シートで引継内容を再確認しながら、小中合同で個別の指導（支援）計画を作成する。会の開催前に、中学校側は、計画の原案を作成しておくとういだろう。

（2）その他の移行支援、連携の場面について

①公開授業、学校開放、学校行事への参加について

各学校が行っている公開授業、学校開放日、春季地区運動会などに、互いの教員が参加し、当日や後日に情報交換の場をもつとよい。

中学校で行われる場合には、小学校側から特コ、6年生の時の担任や学年主任が参加し、卒業生の様子を観察する。現在小学校に在籍している支援や配慮が必要な児童に対して、中学校での生活を想定した指導・支援の方法を考える際に、役立てることもできる。中学校側は、対象生徒の現状や小学校時代の話を改めて聞き、現在の指導・支援に役立てることができる。

また、小学校で行われる場合には、中学校側から特コや現在の担任や学年主任が参加し、現5、6年生で支援や配慮が必要な児童を中学校側が把握し、中学校での受け入れ体制を早期から考える機会ともなる。

②定期的な小中連絡会の開催

中学校区で総合的な分野にわたって小中連携会議を定期的に行っている場合には、小中学校の特コ、教育相談、生徒指導の担当者が一堂に会する「支援や配慮を要する児童生徒の連絡会議」を同日開催するとよいだろう。その中で、各校の支援や配慮が必要な児童生徒への指導・支援の情報交換や検討を行いながら、各校だけでなく中学校区全体の支援体制も検討していくことが望ましい。

3 移行支援シート

(1) シートの様式 (表面)

個別の移行支援シート (支援)				【小→中版】	
提出先: ○○中学校長 様					
○○小学校 印					
(ふりがな) 氏 名		性 別	生年月日	平成 年 月 日	平成 年度卒業
住所・連絡先	〒 Tel: ()				
保護者氏名			緊急連絡先	Tel: ()	
出身校	〒 Tel: ()				
卒業時の担任	担 任: 特別支援教育 コーディネーター名:				
■相談・受診歴			■諸検査の結果 ・田中ビネーV ○年○月 検査者: ・WISC - ○ ○年○月 検査者:		
■支援のポイント・配慮事項など					
	自分の強み 得意なこと	苦手なこと 支援・配慮が必要なこと	支援のポイント/ 対処方法	※ 中学校での 支援概要	
[学習・理解] 読む・書く 聞く・話す 計算する 推論する					
[生活・行動] 不注意・多動 衝動性					
[対人関係 ・社会性]					
[その他]					

(2) シートの様式(裏面)

■将来の生活についての本人ならびに保護者の希望 <本人> <保護者>	■中学校生活で大切にしたいこと・支援の方向性
■これまでの支援内容とこれからの役割分担(支援・関係ネットワーク情報)	
家庭生活 窓口となる家族: 連絡先: 行ってきた支援内容と中学校進学後の役割:	出身小学校 担当者: 中学校進学後の中学校の役割:
医療・健康 担当者: 連絡先: 行ってきた支援内容と中学校進学後の役割:	福祉 担当者: 連絡先: 行ってきた支援内容と中学校進学後の役割:
以上の支援について確認し、進路先にこの書類を提出することに同意します。 平成 年 月 日 保護者氏名 ○○○○ 印	

（３）移行支援シート（P 36）の記入上の留意点**①作成にあたって**

小学校側が中学校とケースの話をするときの資料として作成する。

作成にあたっては、必ず保護者の同意をとること。

記入は、小学校の担任または特コが行う。一人で記入するのではなく、対象児童を支えるメンバー全員で、支援チーム会議において話し合いながら、記入することが望ましい。あるいは、少なくともそのメンバーの意見を個別に聴取しながら記入する。

②支援のポイント・配慮事項など

※印の「中学校での支援概要」以外は、小学校で記入。

※印の「中学校での支援概要」は、後で小学校側が中学校と最初に話をしたときに、中学校と一緒に考え、中学校ができるであろう支援の概要を案として記入する。

③これまでの支援内容とこれからの役割（支援・関係ネットワーク情報）

連携している教育機関や医療や福祉の機関、出身小学校における以下の内容を記入する。

- ・各機関、出身小学校での窓口となる担当者名
- ・これまでの具体的支援の内容
- ・これからの各機関、出身小学校の役割

④承認

小学校での記入が終わった段階で、校長の承認をもらい、シートの表面の上の所定の箇所に学校印を押印。

その後、保護者から承認を受け、裏面下の所定の欄に、保護者の署名と捺印をもらう。

4 参考資料：アンケート調査

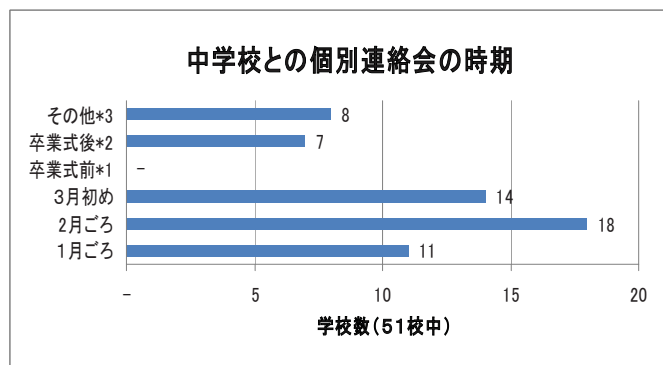
(1) 小学校

① アンケート用紙

アンケート 5	
特別な支援が必要な児童のための移行支援アンケート (小学校→中学校)	
小学校用	
特別な支援が必要な児童について、小学校から中学校への支援の移行(情報の伝達等)をスムーズにするため、以下のアンケートにお答えください。 ※適切な項目の□の中に○や数字をリストから選んで記入してください。その他等の場合には、の中に具体的にお書きください。	
1 中学校と個別ケースの連絡会(支援の移行)を行う時期はいつの時期が良いでしょうか？ ☐ ①1月ごろ ☐ ②2月ごろ ☐ ③3月初め ☐ ④卒業式(月 日)の前 ☐ ⑤卒業式(月 日)の後 ☐ ⑥その他の時期 	
2 引継ぐ内容としては、こういった項目が必要でしょうか？(複数回答可) ☐ ①人とかかわり・社会性 ☐ ④不注意・多動性・衝動性 ☐ ⑦運動面 ☐ ⑩得意なこと・苦手なこと ☐ ⑬診断名・医療連携の有無 ☐ ②コミュニケーション ☐ ⑤情緒面 ☐ ⑧手先の巧緻性 ☐ ⑪その他気がかりな行動 ☐ ⑭その他 ☐ ③興味・こだわり ☐ ⑥数や文字、図形などの学習面 ☐ ⑨日常生活習慣 ☐ ⑫家庭環境	
3 「2」のような項目を引継ぐための移行支援シートを活用していますか？ それ(は、どこが様式を作成したものですか？(例:特別支援教育センター、市教委) ☐ ①活用している→ の様式 ☐ 活用していない	
4 支援を引継ぐことの保護者の同意は、いつ得られ得るとよいと思いますか？ ☐ ①中学校との連絡会の直前 ☐ ③年度のできる限り早期 ☐ ②年度の始め ☐ ④その他 	
5 保護者との同意を得る際に課題となっていることは何ですか？ ☐ ①児童の状況についての認識のズレ ☐ ③発達障害等、障害の理解の難しさ ☐ ⑤その他 ☐ ②保護者の考えが聞きづらい ☐ ④中学校での支援が見通せない	
6. その他の支援を移行するために課題となっていることは何ですか？	
※当校は、公立ですか？私立ですか？ ☐ ①公立 ☐ ②私立 ※記入者の所属の市町村名 ※記入者の職名 	

①結果

1) 中学校との個別連絡会の時期



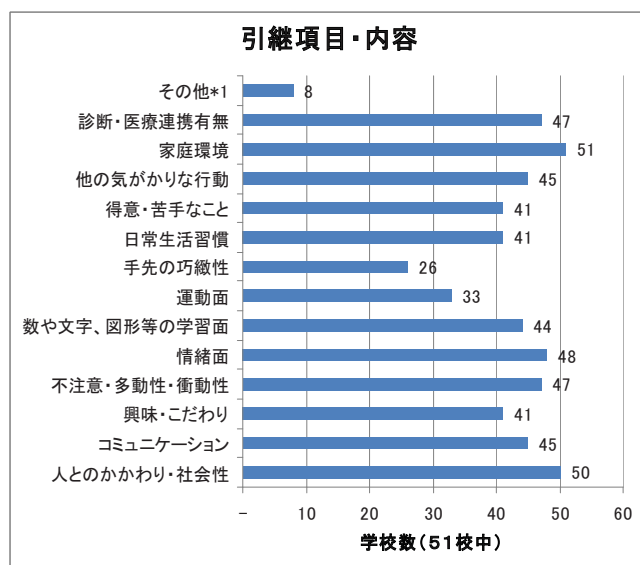
- *2 卒業後：3/14～19
 *3 その他
 ・入学前に情報を伝えることはクラス編成などにもかかわるため重要。保護者を交え担任や学年主任などが確定次第できるだけ早期に行うべき。
 ・担任決定後の春休み中にも必要な場合には行う。
 ・体験入学前と担任決定後。
 ・1月と3月の二つの時期が必要。
 ・入学後にも必要。

中学校との連絡会は、早い学校では1月ごろから遅くとも3月初めには大半の学校が行いたいと考えている。しかし、1回のみではなく、卒業式後、相手中学校の担任決定後や入学後にも再度行うべきという丁寧なつなぎを必要と考える学校も10校以上あった。

2) 引継項目・内容

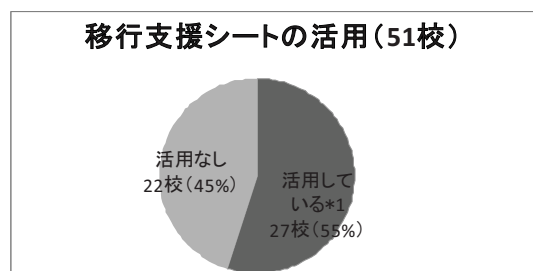
引継ぎの内容として必要だと答えた項目は、「手指の巧緻性」や「運動面」が5割～6割程度の学校にとどまったが、他の項目は8割からほとんどの学校が答えていた。

また、その他の項目で発達障害以外の疾病や不登校の状況、医療機関以外の外部機関との連携について、または保護者と学校の関係や保護者の養育や保護者の希望する支援方法など、保護者との連携に関する内容を必要と考える学校もあった。



- *1 その他
 ・疾病・登校状況(不登校)
 ・保護者の養育スタイル・スキル。成育歴
 ・本人や保護者が望む支援方法
 ・外部機関との連携
 ・保護者との関係

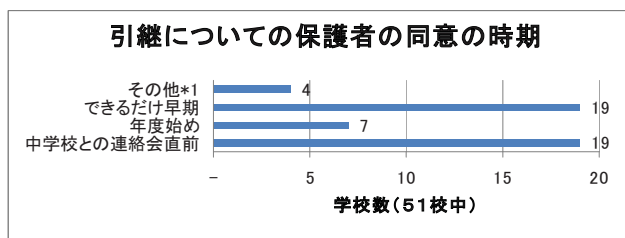
3) 移行支援シートの活用



- *1 活用様式
 ・市町教委19校
 ・相手の中学校独自2
 ・本校独自4校
 ・市町特別支援学級1校

小学校51校中、55%に当たる27校が活用していた。そのうち、市町教委の様式を使っているのが19校、各学校や中学校など独自で工夫した様式を使っている学校は8校であった。

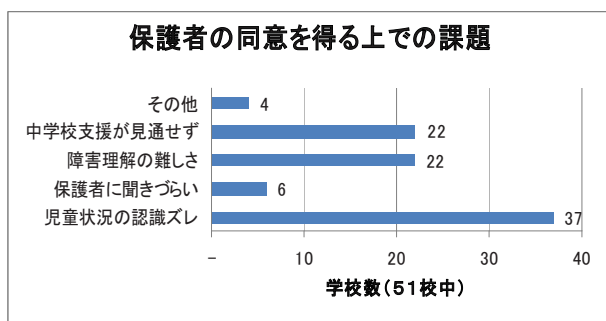
4) 引継についての保護者の同意の時期



*1 その他
 ・保護者の理解が得られ次第
 ・保護者との信頼関係ができた後
 ・保護者会等で随時
 ・1学期の保護者会など

保護者の同意を得る時期について。できるだけ早期にと考えているのは小学校51校中、約40%の19校、年度始めと答えた7校と合わせると約半数が早めに同意を得たいと考えていることが分かった。一方で中学校との連絡会直前という答えも40%だった。

5) 保護者の同意を得る上での課題



保護者の同意を得る上での課題としては、「児童の状況についての学校と保護者の認識のズレ」が7割の37校、「障害理解の難しさ」も4割近くの22校の学校が挙げていた。一方で、「中学校の支援が見通せず」との答えも4割近くの22校が答えていて、保護者との連携以前に、中学校との連携が課題であることも浮かび上がってきた。

6) その他、移行支援の課題と考えていること（アンケートの生の声）

- ・小中連絡会は、3月中にどこの中学校区でも行われていると思うが、特に丁寧な移行支援を行うとよいと思われるケースが出てきた場合、窓口となるキーパーソン（教頭や特コなど）の顔が、事前の連絡協議会などで分かっていると、よりスムーズにいく。また、時間確保も課題。
- ・学校側の特別支援教育体制が整っていないことや、特別支援学級担任の意識のズレがある。
- ・進学先の学校の受け入れ体制についての情報がほしい。
- ・異動等により、担当者（担任）への確実な引継ぎが困難なことがある。
- ・早めに中学校の相談担当の先生に話をしても、情報が担任に伝わっていないことがある。
- ・中1担当の方へ引き継ぐためには、新年度にならないと動けないことがある。
- ・中学校との連絡がなかなかとれない状況である。連絡をスムーズに行うにはどうしたらよいか。
- ・中学校の先生に様子を見に来てもらう時間がとれない。移行支援のための時間を十分に確保できない。
- ・中学校でどのような物的・人的支援がなされるのかについて、十分な話し合いができていない。
- ・幼稚園・保育所→小学校の段階に比べ、支援会議や連絡会など時間が十分にとれない。
- ・移行支援した内容を新しい担任に伝えたり、校内で共通理解すること。
- ・移行支援後の連携が必要であるが、体制としてはできていないこと。
- ・中学校での受け入れ体制。
- ・発達障害の子にどの程度対応してもらえるのかということなどの、中学校における支援が見通せないこと。
- ・中学校での支援体制のあり方を保護者に説明しづらいことがあること。
- ・中学校では小学校と同じ支援を行うことは難しい。
- ・一人ずつの支援の必要性は理解できるのだが、実際に全てを中学校側だけに要求するのは無理がある。
- ・（特別支援学校を含めた）関係機関との連携をきめ細かに進める必要があると考える。
- ・特別支援学校が適当と判断されても、保護者が中学校の特別支援学級を希望される場合。
- ・支援が必要な児童とふれ合う周りの友達・保護者の共通理解。
- ・小学校、中学校それぞれの思いのズレ
- ・市内共通で、幼→小→中と通して使っているような支援シートがあるとよいと思う。
- ・町内で統一した支援シートを使用して、小学校6年間を通した児童の実態や支援法について引き継ぐこと。
- ・せめて校区内での共通の移行支援シートが必要であると思うが、できていないこと。

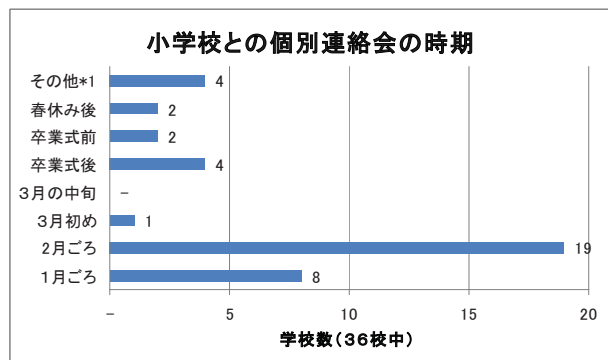
(2) 中学校

① アンケート用紙

アンケート 6															
特別な支援が必要な児童のための移行支援アンケート (小学校→中学校)															
中学校用															
特別な支援が必要な児童について、小学校から中学校への支援の移行(情報の伝達等)をスムーズにするため、以下のアンケートにお答えください。 ※適切な項目の口の中に○や数字をリストから選んで記入してください。その他等の場合には、の中に具体的にお書きください。															
1 小学校と個別ケースの連絡会(支援の移行)を行う時期はいつの時期が良いでしょうか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①1月ごろ</td> <td>☐ ②2月ごろ</td> <td>☐ ③3月初め</td> <td>☐ ④3月の中旬</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑤卒業式の後</td> <td>☐ ⑥卒業式の前</td> <td>☐ ⑦春休み後</td> <td>☐ ⑧その他 </td> </tr> </table>	☐ ①1月ごろ	☐ ②2月ごろ	☐ ③3月初め	☐ ④3月の中旬	☐ ⑤卒業式の後	☐ ⑥卒業式の前	☐ ⑦春休み後	☐ ⑧その他 							
☐ ①1月ごろ	☐ ②2月ごろ	☐ ③3月初め	☐ ④3月の中旬												
☐ ⑤卒業式の後	☐ ⑥卒業式の前	☐ ⑦春休み後	☐ ⑧その他 												
2 引継ぐ内容としては、こういった項目が必要でしょうか？(複数回答可) <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①人とかかわり・社会性</td> <td>☐ ②コミュニケーション</td> <td>☐ ③興味・こだわり</td> </tr> <tr> <td>☐ ④不注意・多動性・衝動性</td> <td>☐ ⑤情緒面</td> <td>☐ ⑥数や文字、図形などの学習面</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑦の運動面</td> <td>☐ ⑧手先の巧緻性</td> <td>☐ ⑨日常生活習慣</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑩得意なこと・苦手なこと</td> <td>☐ ⑪その他気がかりな行動</td> <td>☐ ⑫家庭環境</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑬診断名・医療連携の有無</td> <td>☐ ⑭その他</td> <td></td> </tr> </table>	☐ ①人とかかわり・社会性	☐ ②コミュニケーション	☐ ③興味・こだわり	☐ ④不注意・多動性・衝動性	☐ ⑤情緒面	☐ ⑥数や文字、図形などの学習面	☐ ⑦の運動面	☐ ⑧手先の巧緻性	☐ ⑨日常生活習慣	☐ ⑩得意なこと・苦手なこと	☐ ⑪その他気がかりな行動	☐ ⑫家庭環境	☐ ⑬診断名・医療連携の有無	☐ ⑭その他	
☐ ①人とかかわり・社会性	☐ ②コミュニケーション	☐ ③興味・こだわり													
☐ ④不注意・多動性・衝動性	☐ ⑤情緒面	☐ ⑥数や文字、図形などの学習面													
☐ ⑦の運動面	☐ ⑧手先の巧緻性	☐ ⑨日常生活習慣													
☐ ⑩得意なこと・苦手なこと	☐ ⑪その他気がかりな行動	☐ ⑫家庭環境													
☐ ⑬診断名・医療連携の有無	☐ ⑭その他														
3 「2」のような項目を引継ぐための移行支援シートを活用していますか？ それは、どこが様式を作成したものですか？(例: 特別支援教育センター、市教委) ☐ ①活用している()の様式 ☐ ②活用していない															
4 支援を引継ぐ際に、保護者との同意が必要と考えていますか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①必ず必要</td> <td>☐ ②できる限り必要</td> </tr> <tr> <td>☐ ③やむを得ない場合はなくても仕方ない</td> <td>☐ ④必要ない</td> </tr> <tr> <td>☐ ⑤その他</td> <td></td> </tr> </table>	☐ ①必ず必要	☐ ②できる限り必要	☐ ③やむを得ない場合はなくても仕方ない	☐ ④必要ない	☐ ⑤その他										
☐ ①必ず必要	☐ ②できる限り必要														
☐ ③やむを得ない場合はなくても仕方ない	☐ ④必要ない														
☐ ⑤その他															
5 そのほかの支援を移行するために課題となっていることは何ですか？															
※当校は、公立ですか？私立ですか？ <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>☐ ①公立</td> <td>※記入者の所属の市町村名 </td> </tr> <tr> <td>☐ ②私立</td> <td>※記入者の職名 </td> </tr> </table>	☐ ①公立	※記入者の所属の市町村名 	☐ ②私立	※記入者の職名 											
☐ ①公立	※記入者の所属の市町村名 														
☐ ②私立	※記入者の職名 														

②結果

1) 小学校との個別連絡会の時期

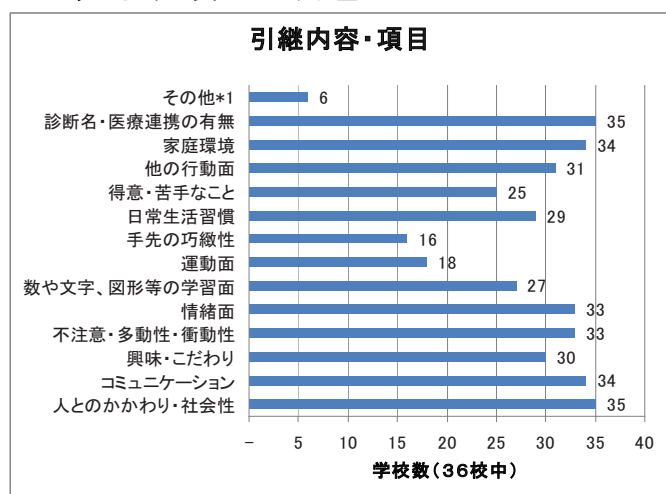


*1 その他

- ・2回に分ける。1月は学級編成のため、卒業式後は早い時期からの支援が必要なケースについて支援の度合いによって異なる。
- ・入学後生徒の様子少し分かった時期
- ・1日体験入学の前
- ・9月頃

小学校との連絡会は、1月から2月ごろまでには27校、3/4の大半の学校が行いたいと考えている。小学校側では、3月初旬までと考えている学校も多いが、卒業式が小学校より早い中学校では2月までにと考えているところが多いようだ。ただし、学校により事情も異なるようで、春休み後や入学後に行くべきという学校や、1回のみではなく、卒業式後や春休み後、入学後にも再度行うべきといった丁寧なつながりを必要と考える学校もあった。

2) 引継項目・内容



*1 その他

- ・小学校での支援の方法や状況
- ・通級等の個別支援の必要性
- ・対象生徒に必要な項目のみ
- ・指導に配慮が必要と思われる内容
- ・パニック時の介入方法
- ・有効な指導法(こんな風に関わるとうまくいくことなど)

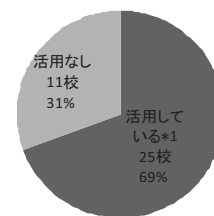
引継ぎの内容として必要だと答えた項目では、小学校と同じく「手指の巧緻性」や「運動面」が低く、5割以下の学校にとどまった。小学校では、他の項目は8割以上の学校が必要と応えていたが、中学校では、本来、本人への学習面での支援の重要なポイントとなるはずの「得意・苦手なこと」「絵や文字、図形等の学習面」は、70～75%に留まっていた。

逆に、その他の項目では支援の方法や状況、通級の必要性、パニック時の介入方法を必要と考える学校や、様々な情報よりも「その生徒に必要な項目のみ」「配慮が必要と思われる内容」「有効な指導法(かかわり方)」と答えた学校もあった。

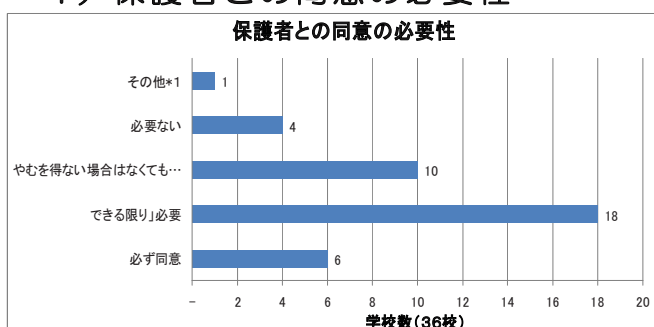
3) 移行支援シートの活用

中学校36校中、7割近い25校が活用していた。小学校より活用の割合が高いのは、中学校や地域独自の様式シートの利用より、各小学校が活用している様式シートが利用されていて、どこかの小学校が作成していれば活用していることになるためだと思われる。

移行支援シートの活用(36校中)



4) 保護者との同意の必要性



*1 その他
・支援の度合いによって異なる。

*1 活用様式

- ・小学校独自の様式9校
- ・市町教委4
- ・特別支援教育センター3校
- ・市町教頭会4校
- ・地域相談部の様式2校

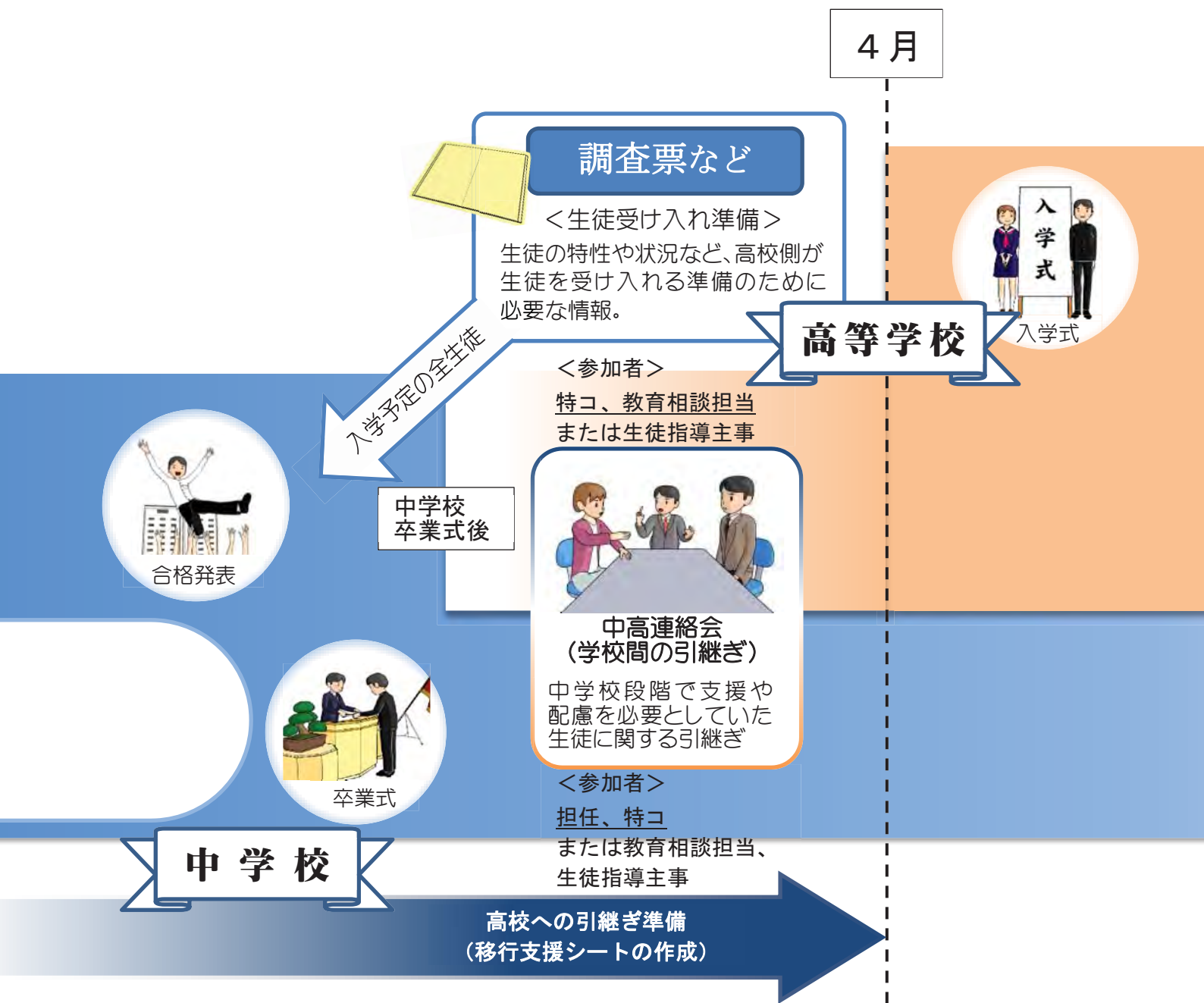
保護者との同意は「必ず」「できるだけ必要」と考えている学校は、36校中24校と全体の67%を占めた。一方、「やむを得ない場合はなくても」という学校も10校あり、同意が必要と考えつつも、保護者の同意を得ることの難しさが課題として大きいことがうかがえる。

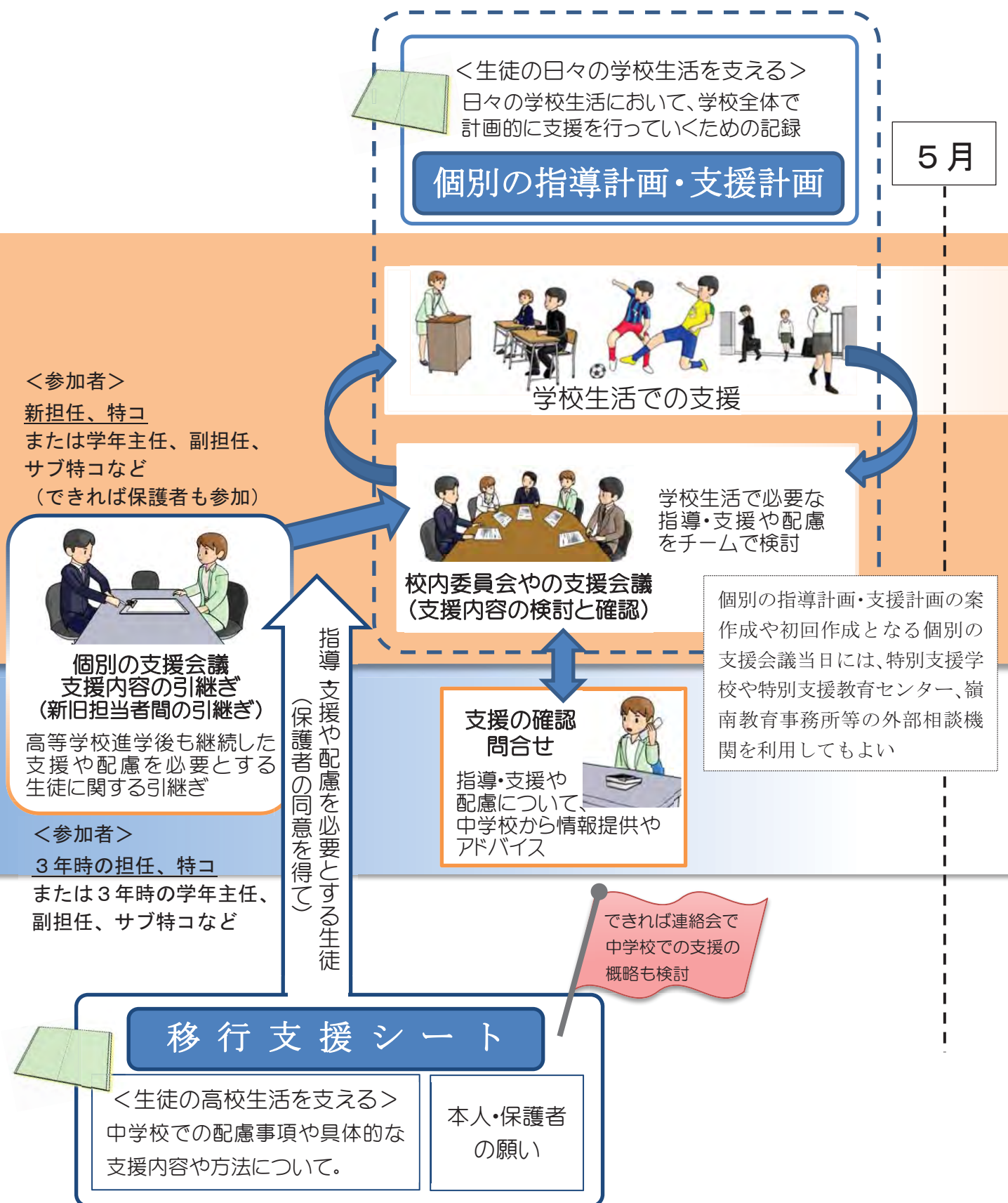
5) その他、移行支援の課題と考えていることなど（アンケートの生の声）

- ・進路についての保護者と学校の認識のズレ。
- ・中学校では特別な支援は必要ない(他の生徒と同じようにしてほしい)と考える保護者がいる。
- ・特別支援学級に在籍予定の児童に関しては移行支援を行いやすいが、通常学級に在籍する児童に関しては、十分な情報が得られず、入学後に情報提供を依頼することが多い。
- ・例えば取り出し学習など、小学校でできた支援が中学校でできるとは限らないので、保護者がその点を理解してくれるかどうかいつも問題になる。
- ・職員間の情報の共有。
- ・入学後担当する教員が、移行時には分からず、情報の内容が引継ぎの連続で正確に伝わらない懸念があること。
- ・教員の異動により、担当者が代わってしまい、詳しいことが分からなくなることがあること(それを防ぐため複数で移行支援会議に参加するようにしているが)。
- ・個人情報としてどこまで中学校へ詳しく伝えるのかという各小学校の共通理解が図れるか。得た個人情報の中学校での管理の徹底。
- ・学校ごとに、評価の基準に差がある。人数にも差があり、全て信用することができない場合もある。
- ・小学校では、可能な支援が中学校では、難しくなるという条件の違い。
- ・十分な支援を行うための人員の不足。
- ・小中の引継ぎは口頭と書面でのみの場合が多い。
- ・移行支援シートの様式については、支援の度合いによって異なる。保護者の同意についても同様である。
- ・昨年度、通常学級に在籍生徒の支援シートの必要性を感じ、校区内統一様式の作成を試みたが、県から統一されたものが出ることを期待して途中でやめた。まだ県からそのシートが出てこないの、年度中に独自で作成していく予定。
- ・特別支援学級に在籍以外の生徒について、移行支援シートが必要であるが、まだ作成されていない(中学校では作成し始めたところ)
- ・幼小中併設校なので情報の連絡については困難ではない。

IV 中学校→高等学校

1 中学校から高等学校への移行支援の概要図





2 解説

（１）中高連絡会（学校間の引継ぎ／生徒の概要について）

①時期と場面

アンケートの結果から、配慮や支援を必要とする生徒に関する中高連絡会は合格後行っていることが多い。広い地域の複数の中学校から生徒が進学することや、アンケートで「卒業式の終わった後」と答えている中学校が２５％あることを考えると、中高連絡会はほとんどの中学校の卒業式が終わった後が望ましいであろう。保護者や本人において、移行支援の連携がかえって不利益にならないかと心配しているとの声もあることから、合格発表前に行うことは難しいと思われる。

地域ごとに中高合同の連絡会を開催しているところもあるが、ない場合でも、学校間で互いに連絡を取り合い、少なくとも新学期開始までには連絡会を開催したい。

②メンバー

中高連絡会には、少なくとも中高とも特別支援教育コーディネーター（以下「特コ」という。）、中学校は担任も一緒に参加できることが望ましい。できれば互いに２名以上（相談担当あるいは、生徒指導担当なども）参加することで情報の内容に漏れや誤解や行き違いがないようにしたい。

③中学校からの引継内容

中学校から伝える情報としては、生徒のおおよその状況を伝えることになる。

具体的には、生徒の特性や診断名、特徴的あるいは配慮の必要な行動、家庭の状況、そして、どれくらいの支援が必要か、などである。

（２）個別の支援会議（入学後の新旧担当者間の引継ぎ／支援内容について）

配慮や指導・支援を複数の教員で、しっかりと行う必要がある生徒の場合には、入学後、高等学校側の新担任が決まった段階で「個別の支援会議」を設定し、支援方法や内容など詳しい情報をやりとりする必要がある。

①開催時期

高校側から、新担任が決まった後、年度始めの春季休業中や新学期が始まって間もない時期で日程調整するとよい。

②メンバー

中学校側は３年時の担任、特コが参加するとよい。どちらか、あるいは両者が異動している場合には３年時の副担任か学年主任、サブ特コが参加する。

高校側は、新担任と特コ、学年主任、養護教諭、教育相談担当などが参加できるとよい。そこに保護者も加わることができればベストである。

③中学校からの引継内容

中学校から伝える情報としては、以下のような内容が必要と思われる。

- ・ 中学校で行っていた配慮や指導・支援についての内容や方法（学習、行動、社会性などの本人の特性に応じたものなど）
- ・ 本人の得意な面、苦手な面、好きなこと、部活動での様子など（高校での指導・支援のヒントになる）
- ・ 連携している医療・福祉機関名やそこで受けている治療やサービスの内容、それらの機関の連絡の窓口や担当者など
- ・ 本人や保護者の願いや思いなど（必要不可欠）

以上の内容を口頭だけではなく、保護者の同意を得て、移行支援シートなどを使って効率よく、しかも伝え漏れがないよう、記録に残し、しっかり引き継ぐことが必要である。

④高等学校での指導・支援、支援体制などの検討

高校側は、この個別の支援会議の際に、中学校からの情報を聞きながら、暫定的なものでも、その時点で考え得る支援体制や指導・支援を検討することが望ましい。中学校と一緒に検討したことを移行支援シートに書き込んで、入学後の指導・支援に備えることができる。

（３）２回目以降の個別の支援会議

前回作成した移行支援シートで引継内容を再確認しながら、高校側は、特コ、担任、本人とかかわりをもつ教員、保護者が集まって、まず、「個別の指導（支援）計画」を作成する。会を開く前に、計画の原案を担任と特コで作成しておくとういだろう。計画の作成や会の助言者として、特別支援学校や特別支援教育センター、嶺南教育事務所等の特別支援教育専門の相談担当者に依頼することもできる。

それ以降も定期的に「個別の支援会議」を開きながら、生徒の状態や支援の経過を把握し、よりよい指導・支援が継続的にできるようにする。

時には、中学校側の窓口となる教員と連絡を取りながら、指導・支援の手がかりを得ることも大切である。

3 移行支援シート

(1) シートの様式(表面)

個別の移行支援シート(支援)				【中→高版】	
提出先: ○○高等学校長 様					
○○中学校 印					
(ふりがな) 氏 名		性 別	生年月日	平成 年 月 日	平成 年度卒業
住所・連絡先	〒			Tel: ()	
保護者氏名			緊急連絡先	Tel: ()	
出身校	〒			Tel: ()	
卒業時の担任 進路担当	担 任 :			進路担当者名 :	
■相談・受診歴			■諸検査の結果 ・田中ビネーV ○年○月 検査者: ・WISC - ○ ○年○月 検査者:		
■支援のポイント・配慮事項など					
	自分の強み 得意なこと	苦手なこと 支援・配慮が必要なこと	支援のポイント/ 対処方法	※高校での支援概要	
[学習・理解] 読む・書く 聞く・話す 計算する 推論する					
[生活・行動] 不注意・多動 衝動性					
[対人関係 ・社会性]					
[その他]					

(2) シートの様式(裏面)

■将来の生活についての本人ならびに保護者の希望 <本人> <保護者>	■高校生活で大切にしたいこと・支援の方向性 				
■これまでの支援内容とこれからの役割分担(支援・関係ネットワーク情報)					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">家庭生活</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">出身中学校</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;"> 窓口となる家族: 連絡先: 行ってきた支援内容と高等学校進学後の役割: </td> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;"> 担当者: 高等学校進学後の中学校の役割: </td> </tr> </table>		家庭生活	出身中学校	窓口となる家族: 連絡先: 行ってきた支援内容と高等学校進学後の役割:	担当者: 高等学校進学後の中学校の役割:
家庭生活	出身中学校				
窓口となる家族: 連絡先: 行ってきた支援内容と高等学校進学後の役割:	担当者: 高等学校進学後の中学校の役割:				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">医療・健康</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">福祉</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;"> 担当者: 連絡先: 行ってきた支援内容と高等学校進学後の役割: </td> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;"> 担当者: 連絡先: 行ってきた支援内容と高等学校進学後の役割: </td> </tr> </table>		医療・健康	福祉	担当者: 連絡先: 行ってきた支援内容と高等学校進学後の役割:	担当者: 連絡先: 行ってきた支援内容と高等学校進学後の役割:
医療・健康	福祉				
担当者: 連絡先: 行ってきた支援内容と高等学校進学後の役割:	担当者: 連絡先: 行ってきた支援内容と高等学校進学後の役割:				
以上の支援について確認し、進路先にこの書類を提出することに同意します。 平成 年 月 日 保護者氏名 ○○○○ 印					

(3) 移行支援シート（P 50）の記入上の留意点

①作成にあたって

最初に高校とケースの話をするときの資料として作成する。

作成にあたっては、必ず保護者の同意をとること。

記入は、中学校の担任または特コか進路担当者が行う。一人で記入するのではなく、対象生徒を支えるメンバー全員で支援チーム会議において話し合いながら記入することが望ましい。あるいは、少なくともそのメンバーの意見を個別に聴取しながら記入する。

②支援のポイント・配慮事項など

※印の「高校での支援概要」以外は、中学校で記入。

※印の「高校での支援概要」は、後で高校と最初に話をしたときに、高校と一緒に考え、高校ができるであろう支援の概要を案として記入する。

③これまでの支援内容とこれからの役割（支援・関係ネットワーク情報）

連携している教育機関や医療や福祉の機関、出身中学校における以下の内容を記入する。

- ・各機関、出身中学校での窓口となる担当者名
- ・これまでの具体的支援の内容
- ・これからの各機関、出身中学校の役割

④承認

中学校での記入が終わった段階で、校長の承認をもらい、シートの表面の上の所定の箇所に学校印を押印。

その後、保護者から承認を受け、裏面下の所定の欄に、保護者の署名と捺印をもらう。

4 参考資料：アンケート調査

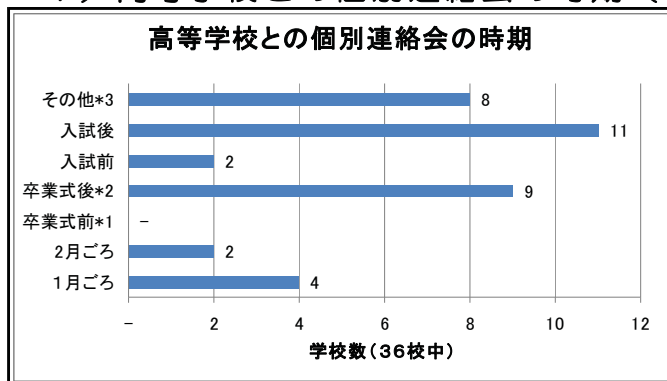
(1) 中学校

① アンケート用紙

アンケート 7	
特別な支援が必要な生徒のための移行支援アンケート (中学校→高等学校)	
中学校用	
特別な支援が必要な生徒について、中学校から高等学校への支援の移行(情報の伝達等)をスムーズにするため、以下のアンケートにお答えください。 ※適切な項目の口の中に○や数字をリストから選んで記入してください。その他等の場合には、 の中に具体的にお書きください。	
1 高等学校と個別ケースの連絡会(支援の移行)を行う時期はいつの時期が良いでしょうか？ ☐ ①1月ごろ ☐ ②2月ごろ ☐ ③卒業式(月 日)の前 ☐ ④卒業式(月 日)の後 ☐ ⑤入試の前 ☐ ⑥入試の後 ☐ ⑦その他 	
2 引継ぐ内容としては、こういった項目が必要でしょうか？(複数回答可) ☐ ①人とかかわり・社会性 ☐ ②コミュニケーション ☐ ③興味・こだわり ☐ ④不注意・多動性・衝動性 ☐ ⑤情緒面 ☐ ⑥数や文字、図形などの学習面 ☐ ⑦運動面 ☐ ⑧手先の巧緻性 ☐ ⑨日常生活習慣 ☐ ⑩得意なこと・苦手なこと ☐ ⑪その他気がかりな行動 ☐ ⑫家庭環境 ☐ ⑬診断名・医療連携の有無 ☐ ⑭その他 	
3 「2」のような項目を引継ぐための移行支援シートを活用していますか？ それは、どこが様式を作成したのですか？(例：特別支援教育センター、市教委) ☐ ①活用している→ の様式 ☐ ②活用していない	
4 支援を引継ぐことの保護者の同意は、いつ得られ得るとよいと思いますか？ ☐ 高等学校との連絡会の直前 ☐ ②年度の始め ☐ ③年度のできる限り早期 ☐ ④その他 	
5 保護者との同意を得る際に課題となっていることは何ですか？ ☐ ①生徒の状況についての認識のズレ ☐ ②保護者の考えが聞きづらい ☐ ③発達障害等、障害の理解の難しさ ☐ ④高等学校での支援が見通せない ☐ ⑤その他	
6. その他の支援を移行するために課題となっていることは何ですか？ 	
※当校は、公立ですか？私立ですか？ ☐ ①公立 ☐ ②私立 ※記入者の所属の市町村名 ※記入者の職名 	

② 結果

1) 高等学校との個別連絡会の時期（複数回答あり）



*2 卒業後：3/12～20

*3 その他

・10月頃

・合格発表の後2校

・入学式前(担任が決定した後)

・ケースにより進路先を検討する段階で必要に応じて個別に対応

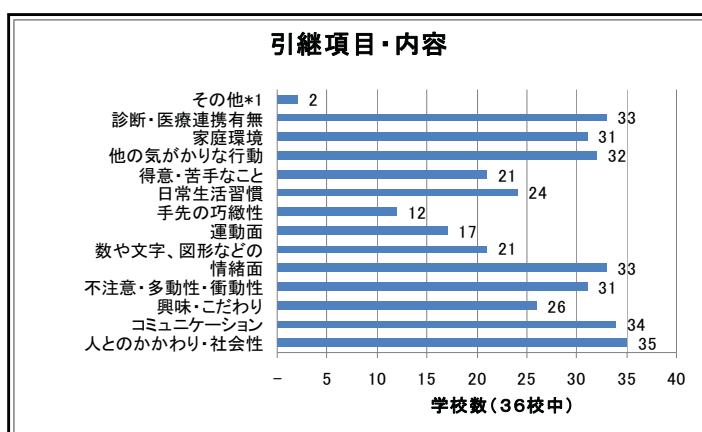
・合格、進学決定後

・合格者登校日の前

高等学校との連絡会は、入試後は11校、卒業式後は9校が行いたいと答えている。その他の時期でも、4校が合格発表や合格者登校日前や入学式前と答えており、多くの学校が合格後の時期を選んでいる。ただし、ケースによっては進路決定の早い時期に連携が必要な場合もあるようだ。

2) 引継項目・内容（複数回答可）

引継ぎの内容として必要だと答えた項目は、「人とのかかわり・社会性」「コミュニケーション」「情緒面」や「診断・医療の連携の有無」など生徒の特性などを示す学校が9割以上あった。一方で「手指の巧緻性」「運動面」は4割未満、その他「絵や文字、図形などの学習面」「得意・苦手なこと」など指導・支援の手がかりになる項目は、59～67%の学校にとどまっていた。

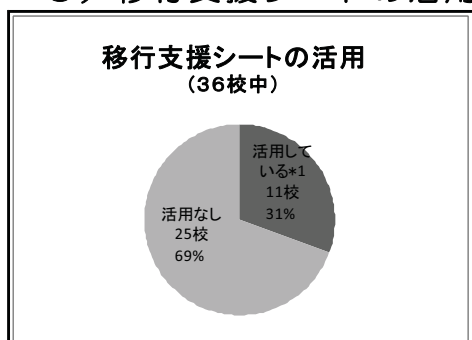


*1 その他

・対称生徒に必要な項目のみ

・有効な指導方向など(うまくいくかわり方など)

3) 移行支援シートの活用



*1 活用様式(1校は複数回答)

・本校独自3校

・地区独自1校

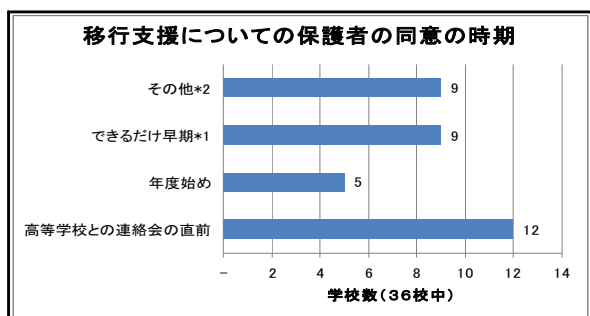
・特別支援教育センター3校

・市町教委4

・各高等学校独自1校

中学校36校中、シートを活用している学校は31%、11校にとどまった。

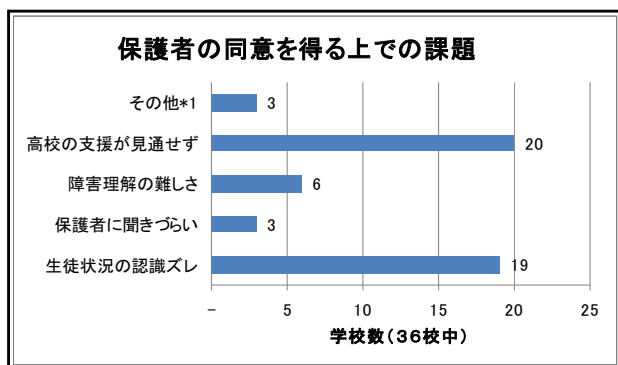
4) 引継ぎについての保護者の同意の時期



- *1できるだけ早期
・進路が決まった時
- *2その他
・進路決定後
・入試前2月頃
・直前でなくても、連絡会の前に
・合格発表後2校
・入学することが決まった後
・中学校在学中・入学が決定したら入学式までに
・その生徒に応じて

保護者の同意を得る時期については、高等学校との懇談会の直前と考えている学校が36校中12校、33%で最も多く、次いで、できるだけ早期という答えも9校、25%であった。

5) 保護者の同意を得る上での課題（複数回答可）



- *1その他
・特別支援学級の生徒の場合、同意を得るのに問題ないが、通常学級の生徒の保護者に同意を得るには、難しい場合がある。
・入試時または入学後でも生徒にとって不利益がないといえるかどうか。
・受験にマイナスにならないかとの保護者の不安がある。
・現在移行支援シートを活用していない。

保護者の同意を得る上での課題としては、「高校の支援が見通せず」が36校中20校56%、「生徒状況の理解のズレ」が19校53%を占めていた。

6) その他、移行支援の課題と考えていることなど（アンケートの生の声）

- ・受け入れ先や保護者の障害に対する理解。
- ・入学後、生徒が不利益を被るのではないかと懸念されること。
- ・発達障害や障害を理由に高校入試で不利益とならないかどうか。
- ・環境の大きな変化でどうなっていくか見通せない。
- ・移行後に支援をつなぐ体制。
- ・試験では、得点を取れるが、コミュニケーションが困難な生徒への支援が、可能なかどうか分からない。
- ・高等学校は義務教育ではないという現実があるので、どのくらい支援をしていただけるかがよく分からない。
- ・高等学校ではどのような支援をしていただけるのかを、中学校側が具体的に把握できていないので、どの程度の生徒を報告しなければならないのかつかめない。
- ・高等学校として、引継ぎをしてほしい内容は何か。
- ・知的に境界線の生徒の行き先がない。また、その生徒のカリキュラムもはっきりしていない。
- ・中高連絡会はあっても、今のところそれに参加する担当は卒業生の情報をしっかり握っているわけではないので、情報が正確には伝わっていないように思う。支援シートが必要だと思う。
- ・学校によって、様式が送られてくるところがあるが、他の学校については分からない。
- ・ケース連絡会の日程調整。
- ・特別支援学校についての移行支援は、保護者の同意も得て、資料もしっかり添えて行っている。しかし、通常の高等学校については、中学校でもかなりの資料を抱えながらも十分移行できていないというのが現状である。高等学校から要請があれば、提示できる学校は多いと思う。移行支援シートについても利用する生徒としない生徒がいる。高等学校からの要請なしにはなかなか出しにくい。
- ・特別支援学級に在籍している生徒に比べ、通常学級に在籍している気付きの生徒の移行支援は、担任との連携が必要で、シートの作成や情報収集に時間がかかると思われる。
- ・進学先が決定するまで引継ぎを行うことができないため、前年度に予算を計上していただいたり人員を確保していただくことが難しい。また、進学先が決定したときにはすでに生徒が卒業しているため、高等学校へ情報を引き継ぐことに対する保護者の同意が得られにくい。

(2) 高等学校

① アンケート用紙（一部抜粋）

平成24年度 高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒の現状調査

福井県教育庁 高校教育課 特別支援教育室
Ⅲ. 発達障害生徒(新1年生)の移行について (平成24年度入学生対象)・・・Q3～Q8Q3 Q1で「発達障害の診断のある1年生」が在籍している学校は、診断をいつ把握されましたか。
時期と方法について下表の各項目に該当生徒数をお書きください。

(注) 個人で複数の情報を得た生徒は該当する項目全てにカウントしてください。

	入学前		入学後		把握 生徒数
	中学校より	その他方法	中学校より	※その他方法	
男子生徒	△	△	△	△	
女子生徒	△	△	△	△	
計					

※『その他の方法』について把握方法をお書きください。

Q4 Q3で「発達障害の診断のある1年生」に対して「出身中学校」よりまたは「保護者」より得た情報は、
どのような内容ですか。下表の各項目に該当生徒数をお書きください。

(注) 個人で複数の情報を得た生徒は該当する項目全てにカウントしてください。

	診断のみ	生徒の状況や 特性について	生徒への支援 方法について	※その他	診断のみ	生徒の状況や 特性について	生徒への支援 方法について	※その他	計
男子生徒	△	△	△	△	△	△	△	△	
女子生徒	△	△	△	△	△	△	△	△	
計									

※『その他』の情報をお書きください。

Q5 Q2で「診断はないが学校生活において配慮や支援が必要な1年生」が在籍している学校は、生徒の状況を
いつ把握されましたか。時期と方法について下表の各項目に該当生徒数をお書きください。

(注) 個人で複数の情報を得た生徒は該当する項目全てにカウントしてください。

	入学前		入学後		把握 生徒数
	中学校より	その他方法	中学校より	※その他方法	
男子生徒	△	△	△	△	
女子生徒	△	△	△	△	
計					

※『その他の方法』について把握方法をお書きください。

Q6 Q5で「診断はないが学校生活において配慮や支援が必要な1年生」に対して「出身中学校」または「保護者」より
生徒のどのような情報を得ましたか。下表の各項目に該当生徒数をお書きください。

(注) 個人で複数の情報を得た生徒は該当する項目全てにカウントしてください。

	生徒の状況や 特性について	生徒への支援 方法について	※その他	生徒の状況や 特性について	生徒への支援 方法について	※その他	計
男子生徒	△	△	△	△	△	△	
女子生徒	△	△	△	△	△	△	
計							

※『その他』の情報をお書きください。

Q7 Q4, 6で、出身中学校や保護者から得た生徒に関する情報は、どのような手段で得られましたか。
下表の各項目に該当生徒数をお書きください。

(注) 個人で複数の手段で情報を得た生徒は該当する項目全てにカウントしてください。

手段	の引継ぎのために作成され た文書の有無	人数
懇談で	有	△
	無	△
電話で	有	△
	無	△
文書送付で	有	△
	無	△
その他の手段		△

※『その他の手段』についてお書きください。

Q8 出身中学校や保護者、関係機関からの生徒に関する情報は必要ですか。
該当する項目一つに○をつけてください。

必要	
あった方がよい	
不要	

Q8-① 「必要」または「あった方がよい」と回答された方は、特に必要と考える項目を、下から5つ選んで
○を記入してください。

- | | | |
|----------------|-----------------------|----------------------|
| ①<) 家庭環境 | ②<) 相談歴 | ③<) 診断名や医療との連携の有無 |
| ④<) 保護者の願いや考え | ⑤<) 生徒本人の願いや考え | ⑥<) 運動面 |
| ⑦<) 行動面 | ⑧<) 学習面 | ⑨<) 情緒面 |
| ⑩<) 対人関係・社会性 | ⑪<) コミュニケーション | ⑫<) 性格 |
| ⑬<) 趣味や楽しみ | ⑭<) 興味・関心やこだわり | ⑮<) 得意なこと・苦手なこと |
| ⑯<) 出欠状況 | ⑰<) 部活動 | ⑱<) 中学時に使用していた教材・教具 |
| ⑲<) 学校行事等での様子 | ⑳<) バニックス時や危険行為への対応策 | |
| ㉑<) その他 | | |

※『その他』の内容をお書きください。

Q8-②、③、④は、Q8-①で「必要」または「あった方がよい」と回答された方がお答えください。

Q8-② 生徒に関する情報は、どのような方法で高校に引き継がれることが望ましいですか。
望ましい方法を下欄にお書きください。Q8-③ 出身中学校から生徒の情報を支援を引き継ぐための『個別ケースの連絡会』を行うならば、時期はいつ頃が
よいでしょうか。該当する項目の番号に○をつけてください。

その際、複数回の『個別ケース 連絡会』が必要ならば、該当する番号にその回数数字を記入してください。

- | | | |
|--------------------|-------------|-----------------|
| ①<) 1月頃 | ②<) 2月頃 | ③<) 3月上旬から卒業式前 |
| ④<) 中学卒業式から高校入学式前 | ⑤<) 高校入学式後 | ⑥<) その他 |

※『その他』の内容をお書きください。

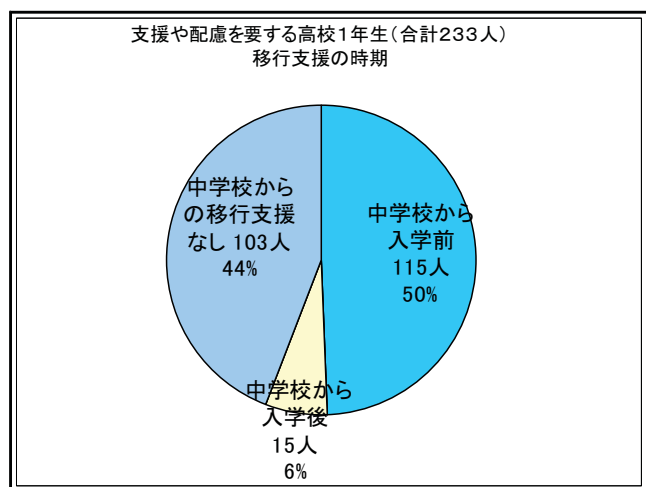
Q8-④ 支援を引き継ぐ際に、保護者の同意が必要と考えていますか？
該当する項目の番号に○をつけてください。

必要	
できればあった方がよい	
状況によっては同意がなくても仕方ない	
その他	

※『その他』の考えをお書きください。

②結果

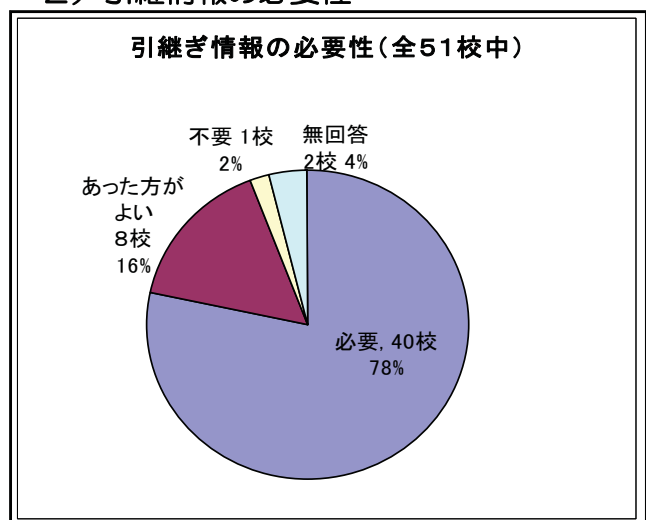
1) 中学校との個別連絡会の時期



調査では、高等学校で支援や配慮を要する1年生233人が、いつの時期に中学校からの移行支援を行ったかを尋ねた。50%に当たる115人は移行支援が入学前に行われており、入学後にも約6%の15人が行われていた。

一方で、中学校からの移行支援が行われていない生徒も103人であった。その中には、保護者や関係機関からの支援の依頼が行われている生徒もいる。

2) 引継情報の必要性



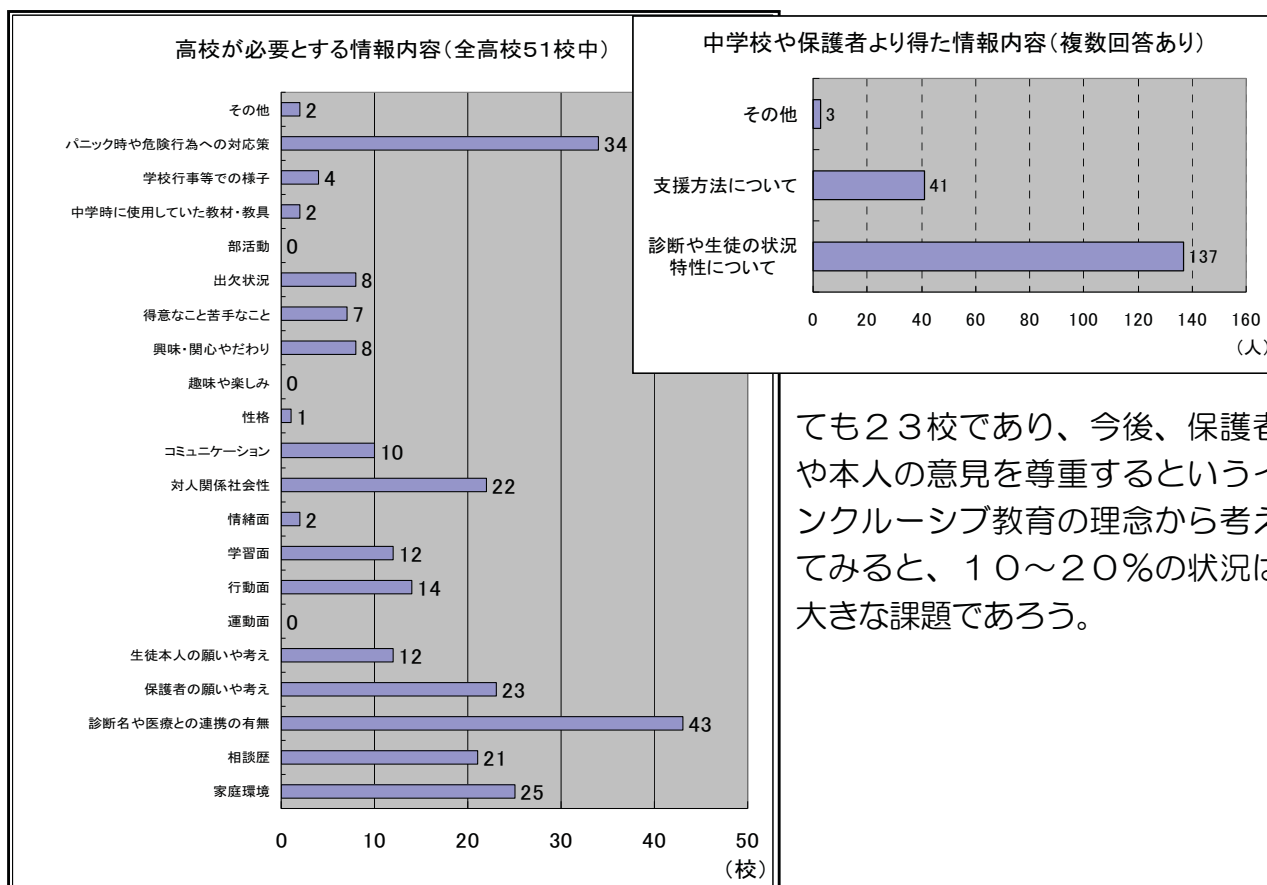
県下全高等学校51校のうち、引継ぎの情報が「必要」と答えたのが78%の40校、「あった方がよい」という学校は8校であり、合わせて94%の学校が移行支援の情報について積極的に必要であると考えている。

3) 引継項目・内容

次ページの左のグラフは、県下の全高等学校51校のうち、必要と考える引継ぎの情報内容を尋ねた結果である。「診断名や医療との連携の有無」43校、84%、「パニックや危険行為の対応策」34校、67%と飛び抜けて多かった。特性に合わせた指導・支援の手がかりになるはずの対人関係や社会性は22校で43%、コミュニケーション面は10校、学習面12校、行動面14校といずれも20~27%に留まっていた。

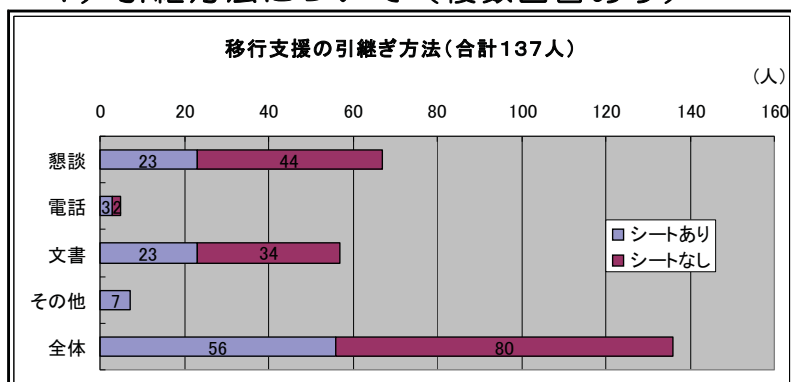
右のグラフは、実際に中学校や保護者から得た情報の内容を調査した結果である。生徒の診断や特性、状況など概略的な内容を得ている事例が全員の137人であるのに対し、支援方法については41人、30%と実際にもあまり引き継がれていないことが分かる。

また、発達障害や支援の必要な生徒に対して、自己有用感を高めるために重要とされている「得意なことや苦手なこと」7校、「興味・関心やこだわり」8校、「趣味や楽しみ」「部活動」0校であった。また、「生徒の願いや考え」は12校、「保護者の願いや考え」につい



ても23校であり、今後、保護者や本人の意見を尊重するというインクルーシブ教育の理念から考えてみると、10～20%の状況は大きな課題であろう。

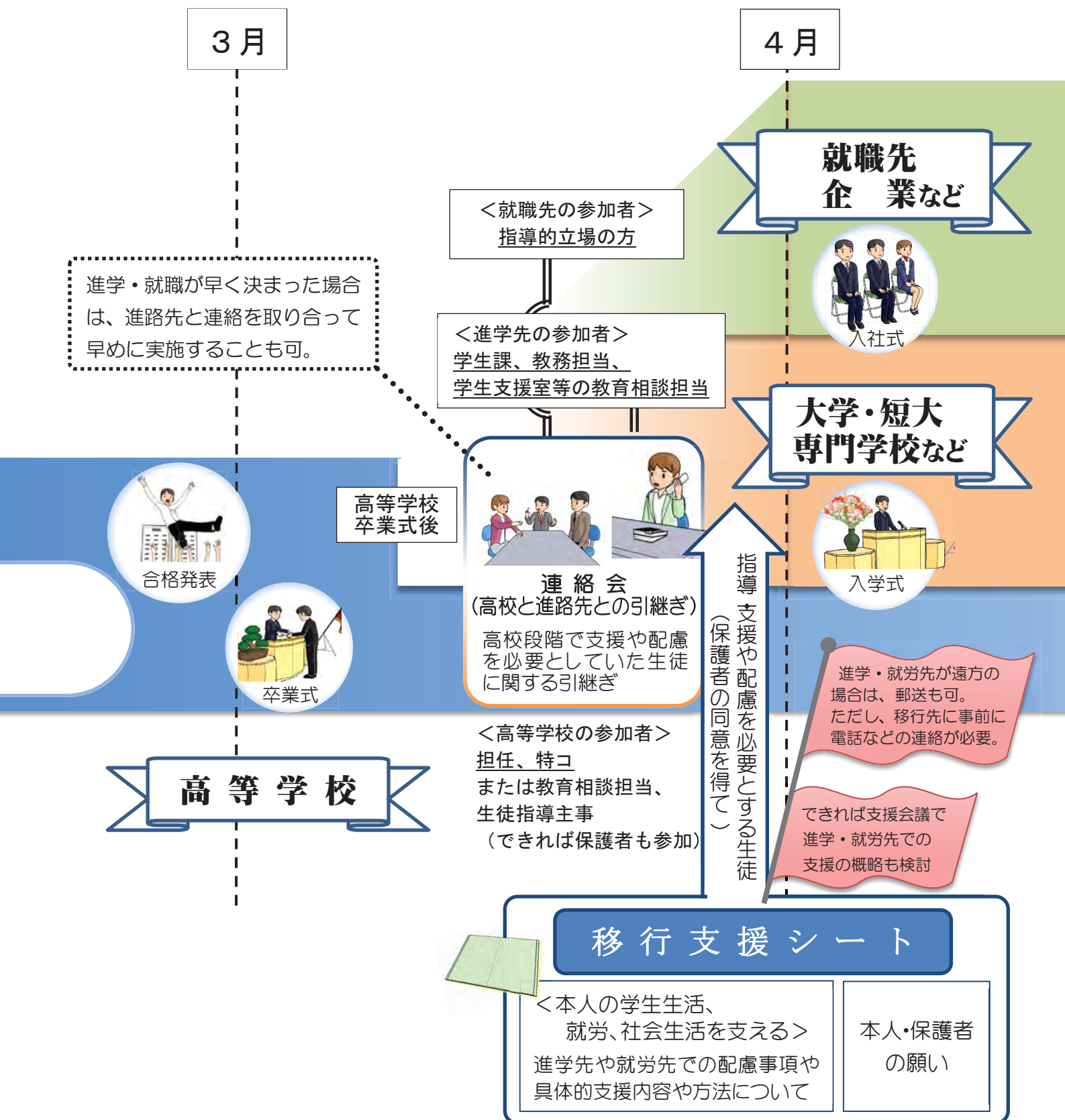
4) 引継方法について(複数回答あり)

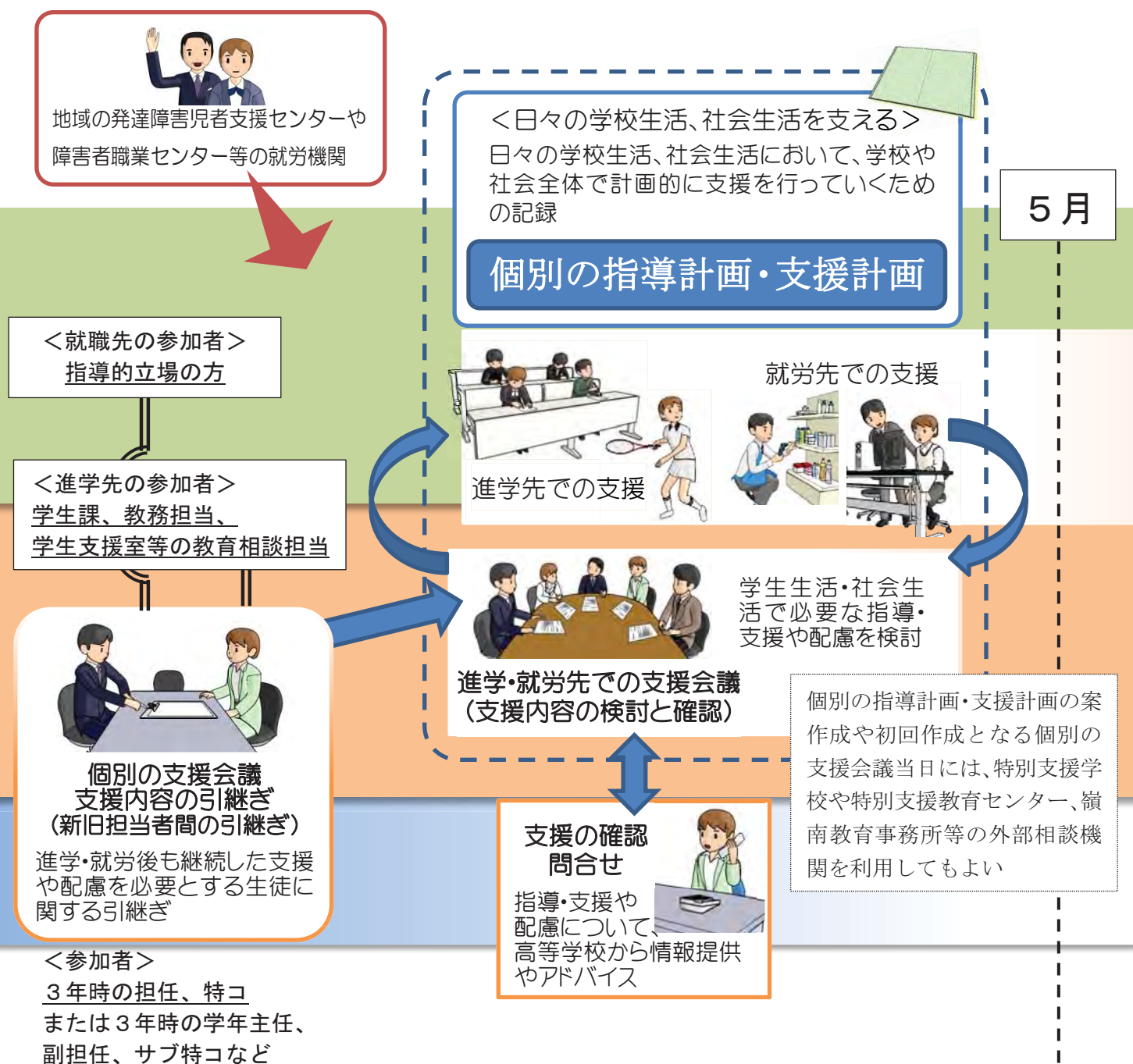


利用している事例は56人(41%)であり、懇談、文書いずれの場合でも移行支援シートとの併用は半数以下であった。懇談の場合では、中学校、高等学校が互いに引き継ぎたいと考えている情報について、漏れなく記録に残る状況で引き継がれることは難しいと思われる。文書の場合でも、専用のものではないので、必要な情報の記入漏れがあったり、他の情報の中に埋もれるなどして、十分に伝わらないことも考えられる。

V 高等学校→進学・就労

1 高等学校から進学・就労への移行支援の概要図





2 解説

（１）入学前、入社前の進路先（大学・短大・専門学校や就労先）との引継ぎ

①時期と場面

アンケートの結果から、支援や配慮を必要とする生徒に関する連絡会は、進学、就労いずれの場合も、入学、入社が決まって、できるならば早い時期に、遅くとも３月～４月の入学前または入社式前までに行うことが望ましい。送り出す学校と進路先が連絡を取り合い、予め日程調整をしながら決定すると良いだろう。

②メンバー

連絡会には、少なくとも高校側は、担任と特別支援教育コーディネーター（以下「特コ」という。）と一緒に参加し、大学、短大、専門学校側は、学生課や教務の担当者、学生支援室等の教育相談担当者の参加が望ましい。

就労する場合には、障害者職業センターのジョブコーチやハローワーク、若者サポートセンター、地域の発達障害児者支援センターなどの相談員と事前に連携した上で、連絡会への参加を依頼できるとよいだろう。

また、就労先は、採用担当者または職場で本人への指導的立場になる方がよいだろう。

できれば双方に２名以上（学校側は、上記の担当者が難しい場合は、相談担当か、生徒指導、生活指導担当など）が参加することで情報の内容に漏れや誤解や行き違いがないようにしたい。そこに保護者、本人も参加できると良い。

③高等学校からの引継内容

高等学校から伝える情報としては、以下のような内容が必要と思われる。

- ・生徒の特性や診断名、特徴的あるいは配慮の必要な行動、家庭の状況
- ・学校で行っていた指導・支援、配慮について、その内容や方法（特に社会性、コミュニケーション、注意力、学習面、就労の場合には事務処理能力など、本人の特性に応じたものなど）
- ・本人の得意な面、苦手な面、好きなこと、部活動での様子、趣味など（進路先での指導・支援、卒業後の家庭生活の幅を広げるヒントになる）
- ・連携している医療・福祉機関やその内容、連絡の窓口となる人など
- ・本人や保護者の願いや思いなど。特に就労後の生活について、必要不可欠）

以上の内容を口頭ではなく、移行支援シートなどを使って効率よく、しかも伝え漏れがないよう、記録に残し、しっかり引き継ぐことが必要である。

（２）個別の支援会議（入学、入社後の新旧担当者間の引継ぎ）

しっかりとした指導・支援、配慮を複数の支援者で行う必要がある生徒の場合には、入学後や入社後、１か月が経つ前に「個別の支援会議」を設定し、支援方法や内容など詳しい情報をやりとりする必要がある。

①開催時期

高校側から、進路先と連絡を取り、年度始めの春季休業中や新学期が始まって間もない時期で日程調整するとよいと思われる。

②メンバー

高校側は、３年時の担任、特コが参加。どちらか、あるいは両者が異動したり、出席できない場合には３年時の副担任か学年主任、サブの特コが参加する。

大学等は、教務や学生課などの担当者、学生支援室等の教育相談担当者が参加し、就労側は直接の指導担当者や連携している相談機関等が参加。そこには保護者、本人も是非参加できるようにしたい。

③検討内容

前回作成した移行支援シートで引継内容を再確認しながら、進学先、就労先として、「個別の指導（教育支援）計画」を作成する。会を開く前に、進学先、就労先で計画の原案を作成しておくとういだろう。計画の作成や会の助言者として、地域の発達障害児者支援センターや障害者職業センターの職員など専門の相談担当者を活用することもできる。

それ以降も進学先、就労先では、定期的に「個別の支援会議」を開き、本人の状態や支援の経過を把握し、家庭生活を含め、よりよい指導・支援が継続的にできるようにする。

時には、高等学校側の窓口となる教員と連絡を取りながら、指導・支援の手がかりを得ることも大切である。

（３）進学・就労先が遠方の場合

進学先や就労先が県外で遠方である場合には、事前に連絡を取り、移行支援シートを郵送したのち、電話などで丁寧に情報交換することが望ましい。

3 移行支援シート

(1) 高等学校→進学版の様式

① 高等学校→進学版（表面）

個別の移行支援シート（支援）				【高校→進学版】	
提出先：〇〇〇〇〇〇長 様					
〇〇〇〇〇高等学校 印					
(ふりがな) 氏 名		性 別	生年月日	平成 年 月 日	平成 年度卒業
住所・連絡先	〒 Tel: ()				
保護者氏名			緊急連絡先	Tel: ()	
出 身 校	〒 Tel: ()				
卒業時の担任 進路担当	担 任 : 進路担当者名 :				
■相談歴など			■諸検査の結果（検査名、実施日、検査した機関等記入）		
■支援のポイント・配慮事項など					
	自分の強み 得意なこと	苦手なこと 支援・配慮が必要なこと	支援のポイント／ 対処方法	※学校での支援概要	
[学習・理解] 読む・書く 聞く・話す 計算する 推論する					
[生活・行動] 不注意・多動 衝動性					
[対人関係 ・社会性]					
[その他] 就労や家庭生活、趣味など に関すること					

②高等学校→進学版（裏面）

■将来の就労についての本人ならびに保護者の希望 <本人> <保護者>	■学生生活で配慮して欲しいこと・支援の方向性
■これまでの支援内容とこれからの役割分担（支援・関係ネットワーク情報）	
家庭生活 窓口となる家族： 連絡先： 行ってきた支援内容と進学後の役割：	出身高等学校 担当者： 進学後の出身高等学校の役割：
医療・健康 担当者： 連絡先： 行ってきた支援内容と進学後の役割：	福祉 担当者： 連絡先： 行ってきた支援内容と進学後の役割：
以上の支援について確認し、進路先にこの書類を提出することに同意します。 平成 年 月 日 保護者氏名 ○○○○ 印	

(2) 高等学校・大学・短大・専門学校等→就労版の様式

① 高等学校・大学・短大・専門学校等→就労版（表面）

個別の移行支援シート（支援） 【高校・大学・短大・専門学校等→就労版】

提出先：〇〇〇〇〇〇〇〇 様

〇〇〇〇〇〇 印

（ふりがな） 氏 名		性 別		生年月日	平成 年 月 日	平成 年度卒業
住所・連絡先	〒 Tel: ()					
保護者氏名			緊急連絡先	Tel: ()		
出身校	〒 Tel: ()					
卒業時の指導・進路担当	指導担当者： 進路担当者名：					

■相談歴など

■諸検査の結果（検査名、実施日、検査した機関等記入）

■支援のポイント・配慮事項など

	自分の強み 得意なこと	苦手なこと 支援・配慮が必要なこと	支援のポイント／ 対処方法	※就労先での 支援概要
〔事務処理〕 読む・書く 聞く・話す 計算する 推論する など				
〔行動面〕 不注意・多動 衝動性				
〔対人関係・ 社会性〕				
〔家庭生活・ 趣味・ その他〕				

②高等学校・大学・短大・専門学校等→就労版（裏面）

■将来の社会生活についての本人・保護者の希望 <本人> <保護者>	■就労場面で配慮して欲しいこと・支援の方向性
--	---

■これまでの支援内容とこれからの役割分担（支援・関係ネットワーク情報）

数 育	
家庭生活	出身校
窓口となる家族： 連絡先： 行ってきた支援内容と就職後の役割：	担当者： 就職後の出身校の役割：

医療・健康	福祉
担当者： 連絡先： 行ってきた支援内容と就職後の役割：	担当者： 連絡先： 行ってきた支援内容と就職後の役割：

以上の支援について確認し、進路先にこの書類を提出することに同意します。

平成 年 月 日 保護者氏名 ○○○○ 印

(3) 移行支援シート（P 6 4～P 6 7）の記入上の留意点

①作成にあたって

学校間、就労先とケースの話をするときの資料として作成する。

作成にあたっては、必ず保護者の同意をとること。

記入は、高等学校の担任または特コか進路担当者、大学等から就労する場合は指導担当者か教育相談担当者が行う。一人で記入するのではなく、対象生徒を支えるメンバー全員で、支援チーム会議において話し合いながら記入することが望ましい。あるいは、少なくともそのメンバーの意見を個別に聴取しながら記入する。

②支援のポイント・配慮事項など

※印の「進学先での支援概要」「就職先での支援概要は」以外は、送り出す側の学校（高校または大学・短大・専門学校等）で記入。

※印の「進学先での支援概要」「就職先での支援概要は」は、進学先の学校や就職先と話をしたときに、送り出す側の学校と一緒に考え、進学先の学校や就職先において、できるであろう支援の概要を案として記入する。

③これまでの支援内容とこれからの役割（支援・関係ネットワーク情報）

連携している教育機関や医療や福祉の機関、出身学校における以下の内容を記入する。

- ・各機関、出身学校での窓口となる担当者名
- ・これまでの具体的支援の内容
- ・これからの各機関、出身学校の役割

④承認

送り出す側の学校での記入が終わった段階で、校長や所属長の承認をもらい、シートの表面の上の所定の箇所に学校印を押印。

その後、保護者から承認を受け、裏面下の所定の欄に、保護者の署名と捺印をもらう。

(1) 高等学校

平成24年度 高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒の現状調査

福井県教育庁 高校教育課 特別支援教育室

★以降の質問は、その疑いがある生徒も含めて「発達障害等生徒」としてお聞きします。

Ⅴ.発達障害生徒の進路について(平成23年度卒業生対象)・・・Q12～Q19

Q12 昨年度卒業(平成24年3月卒業)した児童障害等の生徒の進路状況についてうかがいます。
下巻の各項目に該当生徒数をお書きください。

Q12 下表の各項目に該当生徒数をお書きください。

進路先	進学	就職	家事・在宅	その他	計
人数					

Q13 貴社・貴店への来店客の来店動機は概ね何に関する活動の引換えについて、以下の質問にお答えください。

Q13-① Q12で、進学・就労先へ情報の引継ぎを行った発達障害卒業生数を下表の各項目にお書きください。

引継ぎを行った卒業生				引継ぎを行っていない生徒		合計
進学先へ		就労先へ				
						0

Q13-② Q13-①で、進学・就労先へ行った情報の引継ぎはどのような手段で行われましたか。

また、その際『移行支援シート』等の支援の引継ぎのために作成しましたが、

下表の各項目に該当卒業生数をお書きください。

注) 個人で複数的手段で情報の引き継ぎを行った卒業生は該当する項目全てにカウントしてください。

手 段	『移行支援シート』等の支 援の引継ぎのための文書 作成の有無	進学先へ		就労先へ	
		有	無	有	無
選考で	有 無	△	△	△	△
電話で	有 無	△	△	△	△
文書送付で	有 無	△	△	△	△
その他の手段		△	△	△	△

※『子の他の手続別』についてお書きください。

Q14 進学先や就労先に発達障害等の生徒に関する情報の引継ぎは必要ですか。
該当する項目に○をつけてください。

必要	
求められれば引き継ぐ	
不要	

「必要」または「求められれば引き継ぐ」と回答された方は、特に必要と考える項目を、下から5つ選んで○を記入してください。

- | | | |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| ① () 家庭環境 | ② () 相談屋 | ③ () 診断名や療育手帳等の有無 |
| ④ () 周囲者の扱いや考え | ⑤ () 本人の願いや考え | ⑥ () 活動面 |
| ⑦ () 行動面 | ⑧ () 学習面 | ⑨ () 情緒面 |
| ⑩ () 対人関係・社会性 | ⑪ () ミニエーション | ⑫ () 性格 |
| ⑬ () 趣味や楽しみ | ⑭ () 興味・関心やこだわり | ⑮ () 得意なこと・苦手なこと |
| ⑯ () 生活状況 | ⑰ () 部活動 | ⑱ () 高等学校で学びてきた支援や配慮 |
| ⑲ () 学校行事等での様子 | ⑳ () その他 | |
| ㉑ () 家族 | ㉒ () ニックン時や危険行為への対応策 | |
| | 22 () その他 | |
- ※親子の他、他内容も調査対象とします。

※『その他』の内容をお書きください。

Q15 支援を引き継ぐ際に、保護者の同意が必要と考えていますか？ 該当する項目の番号に○をつけてください。

必要	
できればあった方がよい	
状況によっては同意がなくても仕方ない	
その他	

※「子」の他「月」の考えをお書きください

「必要」または「できればあった方がよい」と回答された方は、保護者と同意を得る際に課題となっていることは何ですか？○を記入してください。

①() 課題はない
②() 生徒の状況についての認識のズレ
③() 保護者の考えが聞きづらい
④() その他

※『その他』の内容をお書きください。

Q16 貴校では発達障害等の生徒に対して、特性に配慮した進学指導を行っています

該当する項目に○をつけてください。(複数回答可)

- ①()特に行っていない ②()高校以前の基礎学力の向上をはかる
③()学力検査に向けた受験指導を行う ④()模擬面接や小論文の書き方指導を行う
⑤()オープンキャンパス参加を勧めるなど、進学先の情報を提供する
⑥()進学先に本人の状況や特性を伝え、配慮を求める
⑦()その他

※『その他』の内容をお書きください。

Q17 食校では発達障害等の生徒に対して、特性に配慮した就労支援を行っています

該当する項目に○をつけてください。(複数回答可)

- (イ) 情に行っていない (ロ) 個別の移行支援計画を作成する
(ニ) 職業見学や職場実習を勧める (ハ) 就労施設を併設して、アルバイトを勧める
(ホ) 族の仕方や社会的マナーを成など、ソーシャルスキルトレーニングを行う
(ヘ) ハードワークや職業センター等と連携して、職業検査や職業訓練を行う
(ニ) 雇用主や事業所に本人の状況や特性を伝え、配慮を求める
(イ) ソフトウェアの配置など、就労後の支援を配慮する
(ロ) その他

※『その他』の内容をお書きください。

Q18 食校での発達障害等の生徒への進学指導を行う上での問題点や課題は何です

該当する項目に○をつけてください。(複数回答可)

- ①()本人の学力不足 ②()本人の学習意欲や生活態度に問題
③()指導方法が分からない ③()単位認定や進級制度など、校内の制約が大きい
④()本人の理解が得られない ④()保護者の理解が得られない
⑤()進学先の理解が得られない
⑥()その他

※「子」の他「子」の内容をお書きください。

Q19 食校での発達障害等の生徒への就労支援を行う上での問題点や課題は何です

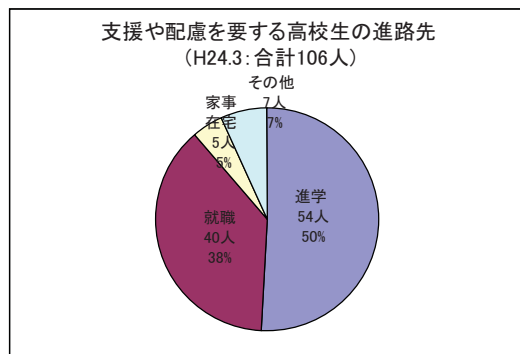
該当する項目に○をつけてください。(複数回答可)

- ①()本人の就労に関する力量が不足 ②()本人の特性や生活態度に問題
③()指導方法が分からない ④()アルバイト禁止校則など、校内の制約が大きい
⑤()本人の理解が得られない ⑤()保護者の理解が得られない
⑥()雇用先の理解が得られない
⑦()その他

※『その他』の内容をお書きください。

②結果

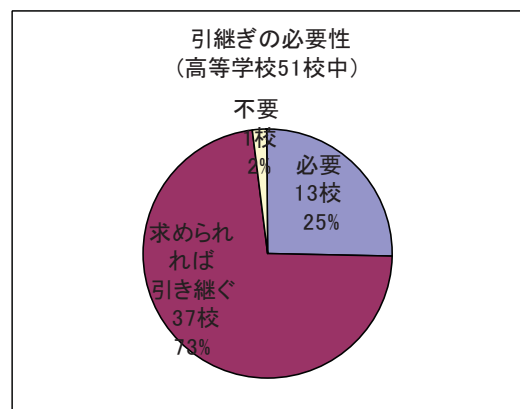
1) 支援や配慮を要する高校生の進路状況



調査では、高等学校で支援や配慮を要する3年生（平成23年3月卒）106人のうち、半数の54人が進学、就職が38%の40人であった。

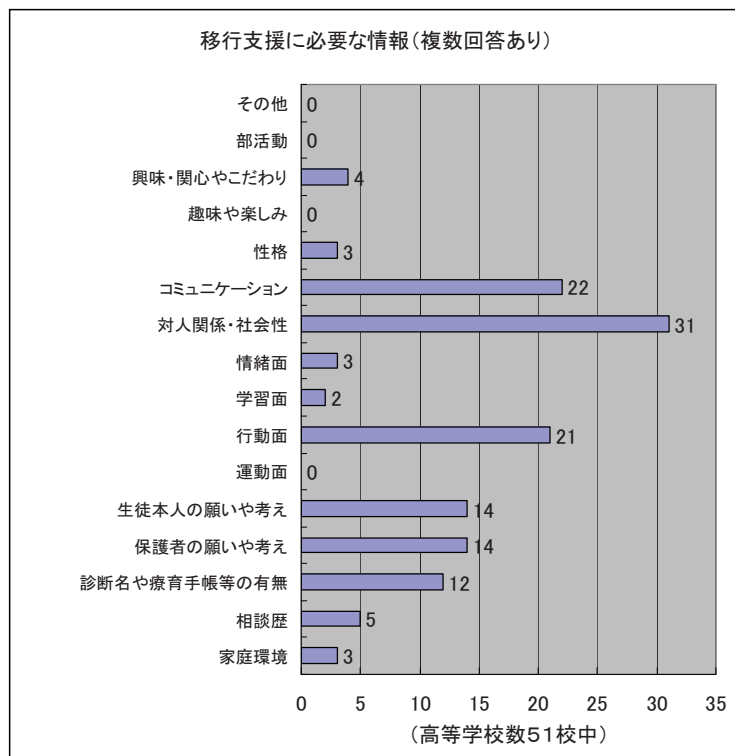
このうち、移行支援を行った者は、進学者54人のうち9人（17%）、就職者40人のうち17人（43%）だった。

2) 引継の必要性



県下全高等学校51校のうち、引継ぎの情報が「必要」と答えたのが25%の13校、「求められれば引き継ぐ」という学校は73%の37校であり、合わせて98%の学校が移行支援の情報について進学先や就労先と引き継ぎたいと考えている。

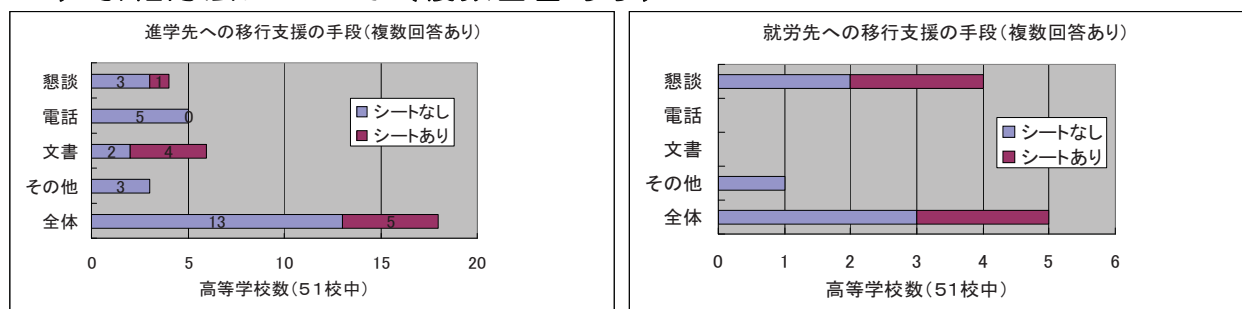
3) 引継項目・内容



左のグラフは、高等学校51校に、進路先や就労先への移行支援に必要な情報内容を尋ねた結果である。「対人関係・社会性」61%の31校、「コミュニケーション」43%の22校、「行動面」41%の21校などと、発達障害と関係のある項目を必要と考える割合が高い。高等学校が進学先や就労先で必要と感じている情報であるとも言える。逆に他の移行段階では必要だとの答えの割合が高かった「診断や療育手帳等の有無」は27%14校であった。

「学習面」はわずか2校であった。

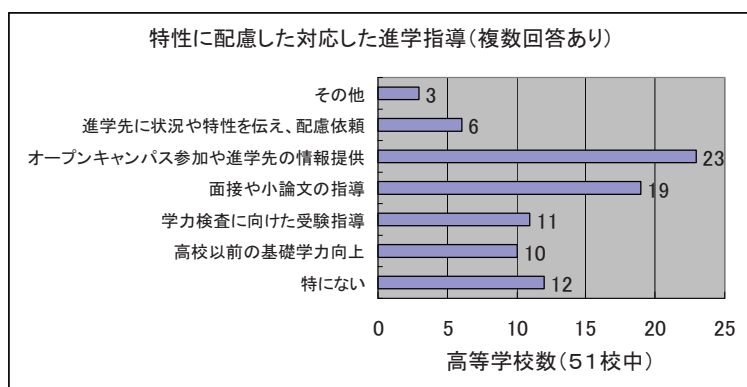
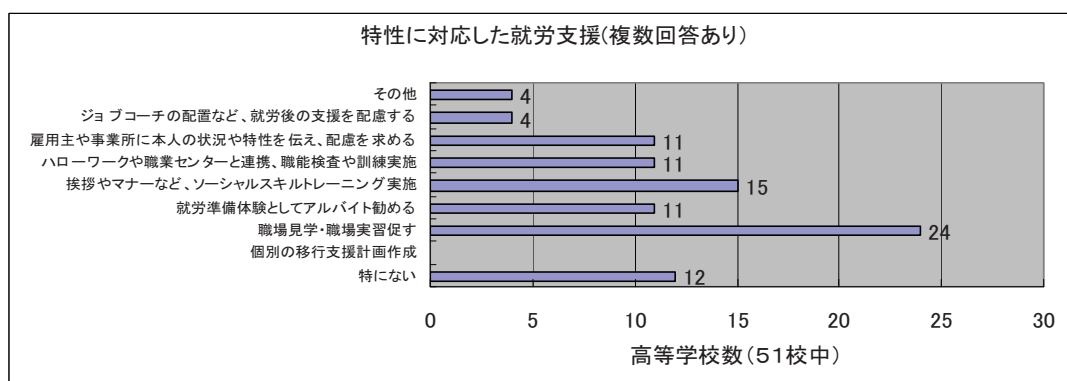
4) 引継方法について（複数回答あり）



支援内容の引継ぎは、進学先に対しては、懇談、電話、文書など様々な手段を使ってつなごうとしているが、移行支援シートの活用は、引き継いだ18校中、5校にとどまっていた。

就労先については、電話や文書といった間接的な方法はとらず、懇談という形で直接会ってつなぐ方法が5校中4校取られていた。シートの活用も5校中2校であった。

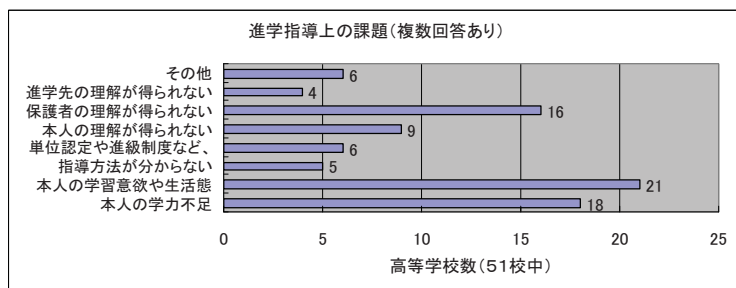
2) 引き継ぐための直接的な指導・支援方法について（複数回答あり）



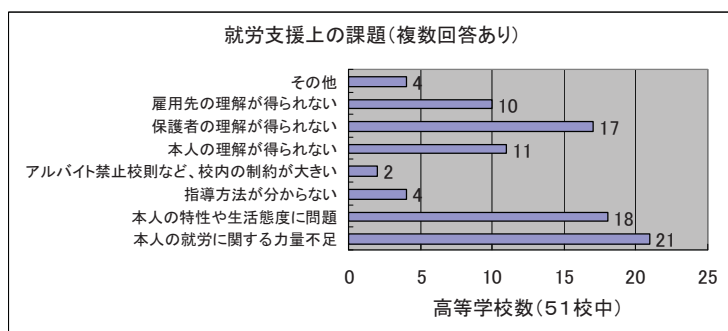
各校で行っている生徒への直接的な指導・支援については、進学指導でも就労支援でも、進路先の見学や体験、情報提供が一番割合が高かった。次に進学では、「面接や小論文の指導」、就労では「挨拶やマナーなどソーシャルスキルトレーニング」を行い、進路先

の人とのやりとりや課題にうまく合わせるための指導・支援に重点をおいていることが分かった。

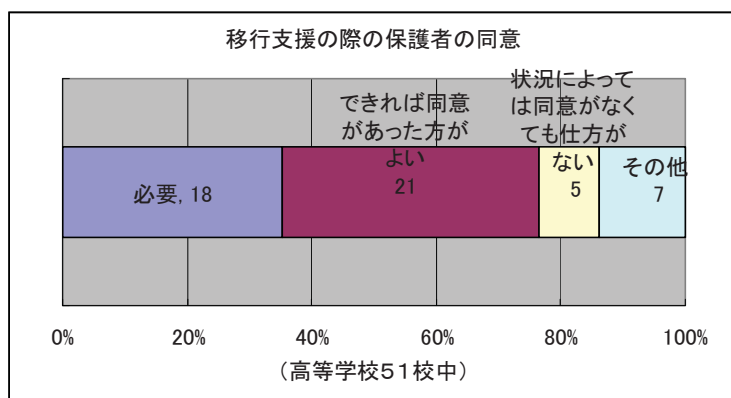
6) 進路指導・支援上の課題（複数回答あり）



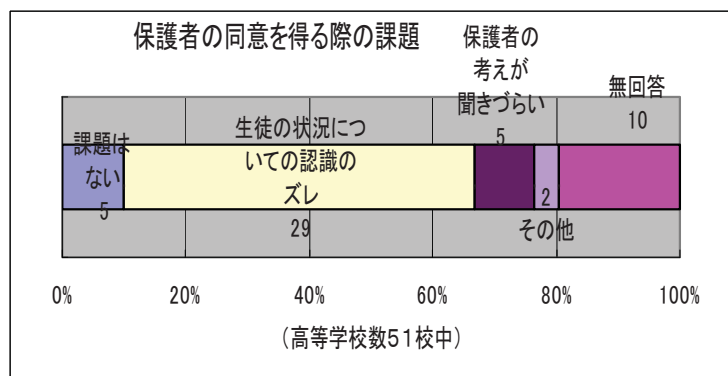
進路上の課題では、進学でも就労でも、本人の特性や生活態度、学力や就労に関する力量不足を挙げる学校が多く、次に3割以上の学校が、保護者の理解が得られないことを挙げていた。



この保護者の同意に関しては、「必要」18校「できればあった方が」21校と合わせて8割近い学校が求めていることが分かった。



その際の課題の詳細については、「生徒の状況についての認識の学校と保護者とのズレ」を挙げている学校が4割の21校、「保護者の考えが聞きづらい」が5校あった。



(3) 大学・短期大学・専門学校・就労先

①アンケート用紙

アンケート 10

特別な支援が必要な生徒のための移行支援アンケート

(高校→就労先・進学先)

就労先企業・進学先用

特別な支援が必要な生徒について、高等学校から就労先・進路先への支援の移行(情報の伝達等)をスムーズにするため、以下のアンケートにお答えください。

※適切な項目の口の中に○や数字を記入してください。その他等の場合には、の中に具体的にお書きください。

1 高等学校と個別ケースの連絡会(支援の移行)を行う時期はいつの時期が良いでしょうか？

- ☐ ①1月ごろ ☐ ②2月ごろ ☐ ③3月初め ☐ ④3月の中旬
☐ ⑤入社・入学前 ☐ ⑥入社時・入学時(月 日) ☐ ⑦その他

2 引継ぐ内容としては、こういった項目が必要でしょうか？(複数回答可)

- ☐ ①人とかかわり・社会性 ☐ ②コミュニケーション ☐ ③興味・こだわり
☐ ④不注意・多動性・衝動性 ☐ ⑤情緒面 ☐ ⑥数や文字、図形などの学習面
☐ ⑦運動面 ☐ ⑧手先の巧緻性 ☐ ⑨日常生活習慣
☐ ⑩得意なこと・苦手なこと ☐ ⑪その他気がかりな行動 ☐ ⑫家庭環境
☐ ⑬診断名・医療連携の有無 ☐ ⑭その他

3 「2」のような項目を引継ぐための移行支援シートを活用していますか？

それは、どこが様式を作成したものですか？(例:特別支援教育センター、市教委)

- ☐ ①活用している()の様式 ☐ ②活用していない

4 支援を引継ぐ際に、保護者との同意が必要と考えていますか？

- ☐ ①必ず必要 ☐ ②できる限り必要
☐ ③やむを得ない場合はなくても仕方ない ☐ ④必要ない
☐ ⑤その他

5 そのほかの支援を移行するために課題となっていることは何ですか？

※当校は、公立ですか？私立ですか？(就労先の方は無回答をお願いします)

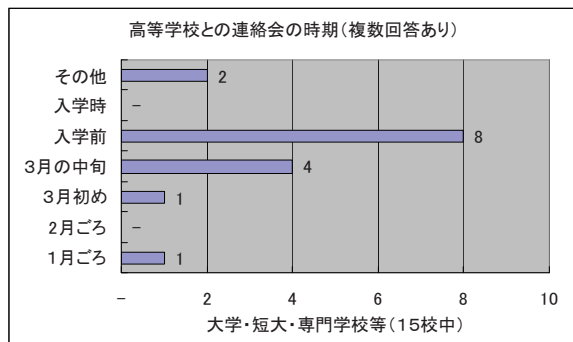
- ☐ ①公立
☐ ②私立

※記入者の所属の市町村名

※記入者の職名

②結果

1) 高校との連絡会の時期（複数回答あり）



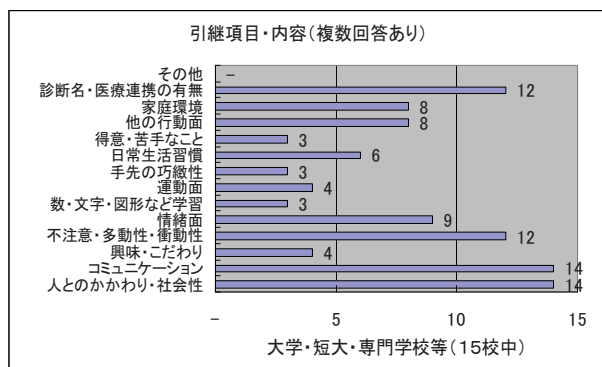
大学や短大、専門学校等へのアンケートでは、高等学校との連絡会は、半数以上の8校が入学前に行いたいと答えている。入学間近の3月中旬も4校あった。

一方、就労先の状況は、企業への調査が難しく、障害者職業センターでの聴取により把握した。連絡会は、入社直前で構わないが、4月1日に入社式が集中する

ため、入社が決まってできるだけ早い時期（少なくとも3月初め頃）に行うのが良いだろうとのことだった。

2) 引継項目・内容（複数回答可）

大学や短大、専門学校等が、引継ぎの内容として必要だと答えた項目として

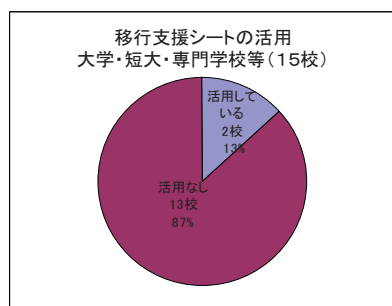


は、「人とかかわり・社会性」「コミュニケーション」や「不注意、多動性、衝動性」「診断名・医療の連携の有無」など、生徒の特性などに関する項目を挙げた学校が8割以上あった。一方で「得意なこと・苦手なこと」「手指の巧緻性」「運動面」「数・文字・図形などの学習面」「興味・こだわり」など指導

・支援の手がかりになる項目は、20～27%の学校にとどまっていた。

一方、障害者職業センターによると、就労先では、上記のグラフにある調査項目全てが必要と答え、それに加え、発達検査の結果や高校で行っていた支援の内容、就労後起こることが予想される課題なども必要であるとのことだった。

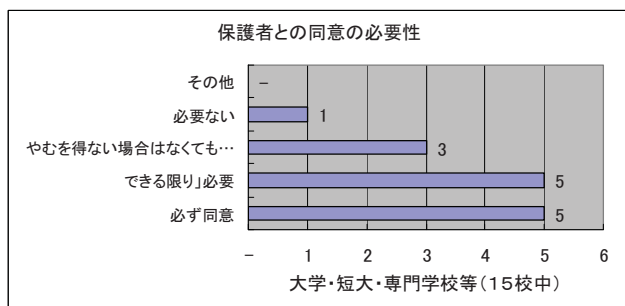
3) 移行支援シートの活用



大学や短大、専門学校等15校のうち、移行支援シートを活用しているのは2校のみで、出身の高等学校が利用している特別支援学校作成した様式や大学独自で作成している様式を使っていた。

一方、就労先では、障害者職業センターがかかわっているケースについては、ジョブコーチが個々に作成した様式で移行しているとのことだった。

4) 引継ぎについての保護者の同意の必要性



保護者の同意については、大学や短大、専門学校等は、「必要である」と答えた学校が5校、「できる限り必要」が5校あった。しかし、「やむを得ない場合は同意がなくても情報を引き継ぎたい」が3校、「引き継ぐ上で、同意は必要ない」が1校あった。

就労先に引き継ぐ場合でも、障害者職業センターの話では、なかなか保護者の同意を得ることが難しい現実があるとのことであった。

5) その他、移行支援の課題と考えていることなど（アンケートの生の声）

<大学、短大、専門学校など>

- ・高等学校側が、進学するにあたり、生徒に不利益になる情報は出さないという姿勢もうかがえる。
- ・本人の特性と入学先のミスマッチによる不適応があるので、偏差値、進学率等で進学先を安易に決めないようなキャリア教育を高校時代にしてほしい。
- ・一人ひとりを就職まで導くためにはある程度の情報があると、効率よく途切れない支援ができるのではないかと考える。もれなく支援していくためには、情報が不可欠である。
- ・引き継ぐ際に、保護者から同意を得られている場合、1年生の時から就職に向けての支援をしやすい。入学当時から保護者とかかわれると良い。1年生から行わなければ、3年生では遅いと感じる現状がある。
- ・卒業後(就労など)のことを考えると、保護者との連携は必須なので、できる限り保護者も本人のことを分かっしておいてほしいと思う。
- ・医療等、専門的な仕事に携わるための学校では、必要な知識や技術のみならず、状況を見極め、的確に判断できる能力・コミュニケーション能力・対人関係能力等さまざまな能力が求められている。従って入学の際に総合的に判定する必要がある。
- ・現在、軽度の方なら受け入れられるが、高校等と同様な対応を必ずし行えるわけではない。
- ・移行会議などの後、意識や行動が変化していくことに対応しきれていない時がある。

<就労先：障害者職業センターからの聴取>

- ・高等学校での指導内容の把握、例えば、継続勤務するために必要な基本的なルールやマナーの習得などの指導がどのように行われているのかの把握が課題である。

おわりに

この事例集を作成するにあたり、発達障害児教育推進チームでは、モデル地区と福井市の保育所、幼稚園、小中学校、県内の高等学校、大学、短大、専門学校、障害者職業センターなど、多くの関係機関の方にアンケート調査のご協力をいただきました。

誠にありがとうございました。

移行支援については、ここ数年、各園や学校、関係機関同士で連携して、進めてきております。しかしながら、支援が次につながらない、移行先の支援が見通せない、前の学校から必要な情報が得られにくい、保護者の同意が難しいなどの声は、まだよく聞かれます。

本ガイドラインが、現場の先生方の移行支援の手引として少しでも役立ち、発達障害や特別な指導・支援の必要性のある子どもたちに、適切な支援が引き継がれ、一人ひとりが自立した个性的で輝く素晴らしい人生を送ることにつながれば、幸いです。

なお、本ガイドラインは、平成25年度、県内の各指導・支援の場で使っていただきながら、ご意見をいただき、平成26年度により、使いやすいものに改訂する予定でおります。

是非とも、みなさんのご意見を数多くお寄せいただければと思います。

平成25年3月